公益財団法人AFS日本協会　www.afs.or.jp/
（UNESCOオフィシャルパートナー）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-16 クロスポイント虎ノ門6F
asiakakehashi@afs.or.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

AFSは「持続可能な開発目標（SDGs）」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標（SDGs）・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16の実現に向けて行動しています。

アジア高校生架け橋プロジェクト＋ 中間報告書

2023年度（第1期）～2025年度（第3期）

―2018年度～2022年度実施　アジア高校生架け橋プロジェクト事業総括含む―

文部科学省補助事業 実施団体 公益財団法人AFS日本協会

ASIA KAKEHASHI PROJECT

AFS Intercultural Programs

アジア諸国及びＧ７メンバー国より、

意欲ある優秀な高校生を日本全国の高校に招へいし、

日本の高校生と共に学び合い、

国際交流を深める文部科学省補助事業

「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」。

2018年から2025年までの８か年に及ぶ

活動をまとめた報告書をお届けします。

架け橋生の成長や、日本の学校・学校寮・民間寮・

ホストファミリーや地域への影響、

８年間の活動を振り返るデータなどから、

プロジェクトのインパクトを感じていただければ幸いです。

目次

１．ごあいさつ 04

２．８年間の総括：未来を紡ぐ「架け橋」の軌跡と展望 06

３．事業報告

３－１．８年間の軌跡（2018～2025年） 08

３－２．応募から来日まで－各国組織との連携 10

３－３．来日後－全国のAFS支部・学校と連携 12

３－４．架け橋生が参加した平和学習 15

３－５．国際交流キャンプ、表敬訪問、修了式、教員振り返り会 18

４．事業成果

４－１．事業への満足度 24

●受入高校アンケート 25

●帰国前アンケート 26

●日本語検定試験結果 26

●帰国１年後アンケート 26

４－２．スピーチコンテスト等の受賞実績 28

４－３．日本の大学への進学実績 31

４－４．架け橋生から見た成果 32

４－５．受入高校から見た成果 36

４－６．在校生から見た成果 40

●架け橋生の信仰宗教 43

４－７．ボランティアから見た成果 44

添付資料：

１．受入実績詳細

●2018年度～2025年度　都道府県別受入高校一覧・受入生徒数一覧 48

２．新聞記事が伝えた全国の「架け橋体験」 56

AFSについて 58

ごあいさつ

文部科学省総合教育政策局国際教育課長
金城　太一

グローバル社会で活躍できる、互いの国の架け橋となる人材の育成

「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」は、2018年度（平成30年度）からの５年間で約1,000人のアジア諸国の高校生を受け入れた「アジア高校生架け橋プロジェクト」の成果を活かし、新たにG７各国の高校生を加えて実施しているプロジェクトです。日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招へいし、日本人高校生との交流を深めているとともに、招へいした留学生と日本人高校生が交流する「国際交流キャンプ」を開催し、国際的に活躍できる人材育成を推進しています。

事業実施に当たる公益財団法人AFS日本協会の職員やボランティア、ホストスクールやホストファミリーの皆様の御尽力に、厚く御礼を申し上げます。

令和５年度にスタートした本プロジェクトも早いもので４年目に入りました。

これまでの実績や成果を生かし、引き続き、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成がなされることを期待しています。

「架け橋生」への投資は国際社会全体の繁栄への投資

過去８年間のアジア架け橋プロジェクトの成功は、国際交流の力の証です。プログラムが第２段階へと発展し、G７諸国を含む28か国・地域からの学生を円滑に受け入れていることを大変嬉しく思います。国際舞台における日本のリーダーシップと、異文化理解の促進に対する日本の強い意志を反映しています。

AFSの理念の中核である「グローバル市民意識の育成と深い相互理解」を体現するものであり、日本政府とこのような意義深いパートナーシップを築けることを光栄に思います。

学生たちは、直接的な教育的恩恵にとどまらず、生涯にわたり日本の親善大使として帰国し、永続的な経済パートナーシップと外交的友好関係の基盤を築きます。2027年以降もこの勢いを維持していくことが不可欠です。これらの若い「架け橋生」への投資は、日本の将来の影響力と国際社会全体の繁栄への投資なのです。この素晴らしい取り組みが今後何年も発展していくことを楽しみにしています。

AFS国際本部会長（CEO）
ダニエル・オブスト

分断から協調へ「アジ架け生」が果たす平和大使の役割

第二次世界大戦終結から80年余りが経ち、地球のいたるところで紛争や内戦が起き、多くの人々の命が奪われています。多感な高校生に自身の宗教や文化を越えて異文化を理解することを学ぶ留学の機会提供は何より代えがたいことです。

アジア21か国・地域を対象に2018年から始まった文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト」と、その後G７の国々が加わった「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」でこれまでに1,232人が日本で学ぶことができました。

AFS日本協会は約1,600人のボランティアが留学生のサポートをしています。何より嬉しいことは難しい日本語を学び、クラブ活動に挑戦する留学生の姿に日本の高校生が感化を受け、英語に興味を持ち留学に目を向けるようになっていることです。

帰国オリエンテーションでは、隣国との紛争が起きている国の留学生同士が「日本に来てお互いの国について学び、対話することができてよかった。私たちの世代で争いをなくしたい」と宣言して、喝采を浴びました。分断から協調へ、日本で学んだ留学生が次世代リーダーとして活躍することは日本にとって宝です。

公益財団法人AFS日本協会理事長
加藤　暁子

AFS Asia and the Pacific Initiative（AAI）事務局長
ディビヤ・アローラ

同窓生が日本からアジア、世界を結ぶ

「アジア高校生架け橋プロジェクトは私にとって貴重な経験であり、ネットワークとの繋がりを保てていることに感謝しています」――これは、すべての卒業生が共有する思いです。2018年の開始以来、このプログラムは1,000人を超える卒業生を輩出してきました。有益な経験を経て、彼らは社会に貢献しています。

私たちはオンラインで交流を続け、卒業生がプログラムや他の参加者との繋がりをより強く感じられるよう、様々な取り組みを行い、彼らのキャリアや大学進学の選択に大きな影響を与えています。彼らは他者をステレオタイプで判断することを避け、柔軟でオープンな心を持つことで、新しいことをより容易かつ迅速に学ぶことができるようになりました。

先輩として、新たな旅路を歩み始める後輩に有益なサポートを提供し、重要なロールモデル、プログラムのブランドアンバサダーとしての役割を果たしています。卒業生たちは今、自己発見の旅路を歩み、世界に対する新たな視点を得ています。プログラム参加以前に彼らが抱いていた世界観は、大きく変化したのです。彼らは世界の現実と自分たちの行動の重大さを認識しています。卒業生たちはボランティア活動やAFSジャパンの取り組みへの支援に関心を示し、今やグローバル市民として、彼らは、ホスト国と派遣国をより緊密に結びつけることで、世界を一つの家族として繋げようと努力しています。

最後に、「アジア架け橋プロジェクトの卒業生は世界を変えている」と申し上げたいと思います。

８年間の総括：
未来を紡ぐ「架け橋」の軌跡と展望

本事業は、2017年６月の第23回国際交流会議「アジアの未来」における、安倍晋三内閣総理大臣（当時）の提言――「日本語を学ぶアジアの高校生たちに、10カ月日本で暮らせる機会を提供する。規模は今後５年で1,000人」――というスピーチを契機に始動しました。これを受け、日本語を学ぶアジアの優秀な高校生を日本に招へいする「アジア高校生架け橋プロジェクト」が発足。公益財団法人AFS日本協会が担い手となり、2018年度から2022年度までの第一期事業がスタートしました。

事業開始当初に掲げた「５年間で1,000人」という目標に対し、コロナ禍という未曾有の困難に直面しながらも、21カ国・地域から974名の招へいを達成。全国47都道府県・298校への配属を実現し、地域を巻き込んだ確かな国際交流の土台を築き上げました。

この強固な基盤を引き継ぎ、2023年度からは「アジア高校生架け橋プロジェクト＋（プラス）」へと進化を遂げました。2023年５月の「G7富山・金沢教育大臣会合」における『富山・金沢宣言』を踏まえ、アジア諸国に加えてG7各国の高校生も新たに招へい対象へと拡大。世界と日本をつなぐ連携施策をさらに強化し、現在も継続して実施しています。

2018年度の事業開始から現在に至るまで、本事業が育んできた高校生は累計1,232名にのぼります。日本人高校生や地域社会との深い交流を通じて、互いの国に精通し、将来の「架け橋」となる次世代リーダーが全国各地で誕生しています。

これまでの８年間で築かれた1,232名の「架け橋」たちのネットワークは、我が国にとってかけがえのない国際的資産です。今後は、多角化する国際情勢に対応した柔軟なプログラムへの発展を図るとともに、帰国した参加者たちが継続して日本と繋がり、多方面で活躍できるよう「卒後ネットワーク」の構築・強化をさらに進めることが求められます。本事業が蒔いた国際交流の種が、次なる時代の多文化共生社会の発展へと繋がるよう、さらなるイノベーションを目指してまいります。

本報告書は、この8年間にわたる事業の歩みと、国境を越えた若者たちが紡いできた確かな成果を総括し、未来の国際人材育成への大いなる一歩を示すものです。

成果・効果

■ 架け橋生への効果と成果

2018～2025年度の架け橋生を対象とした帰国後アンケート（2026年３月実施 ※詳細は４. 事業成果ページ参照）では、極めて高い成果が示されました。

- 「日本への印象が良くなった」：約８割
- 「帰国後、母国で日本を紹介した」：９割以上（ほぼ全員）

この結果は、8年間の歩みを通じて海外の若者が日本の生きた「教育」や「文化」を深く体験し、帰国後も草の根の国際交流が持続している証左です。本事業が掲げる「互いの国の架け橋となる人材の育成」という当初の目的は、今もなお継続的に実現されています。

■ 在校生への効果と成果

2018～2025年度の受入高校を対象としたアンケート（2026年３月実施 ※詳細は５. 効果検証ページ参照）では、高い割合で効果的な変化が示されました。

- 「高校生の架け橋生への出身国に対する理解や関心の高まりを感じる」：約８割
- 「高校生の語学習得に対する意識の変化が向上した」：約７割
- 「架け橋生の出身国/地域に対する理解や関心が在校生の間で高まったように感じる」：約９割

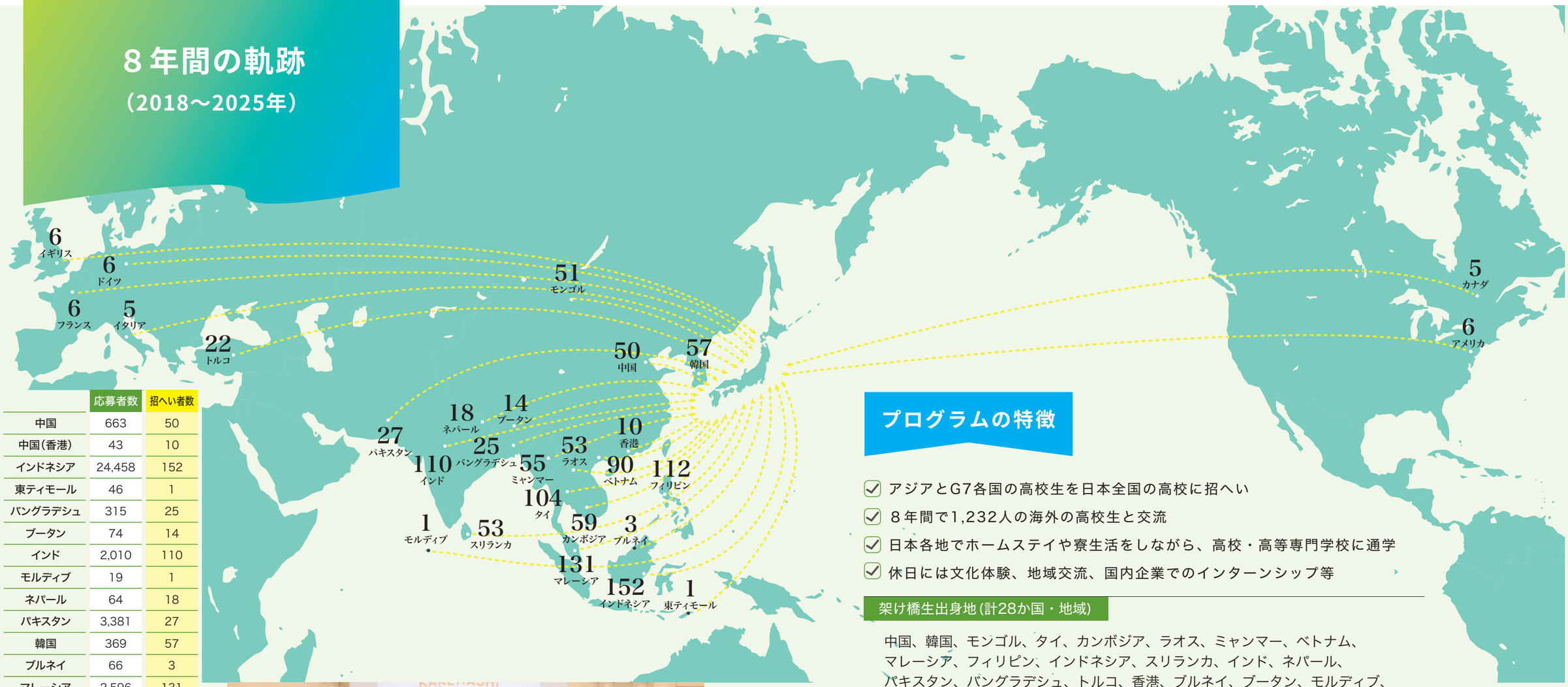
今後の発展に向けて

2023年度に始動した「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」では、前身の５年間の実績をベースに、G7メンバー諸国からの架け橋生の招へいと、全国の日本人高校生との共同生活を実現させました。架け橋生たちは寝食をともにしながら、環境や安全、国際情勢といった現代社会の重要課題について議論を重ねました。それぞれの国や文化のバックグラウンドを尊重しつつ、深く対話する経験は、将来の「架け橋」となる人材育成の強固な土台となっています。

また、受入高校の教員による振り返り会においては、架け橋生だけでなく、日本の在校生側の異文化理解をより深めるための事前準備のあり方など、学校間で定期的にノウハウを共有し合えるプラットフォーム（会合の実施）への礎が築かれました。

本事業は、まもなく10年目という大きな節目を迎えます。これまでに築いた「生徒たちの対話の場」と「教育現場の連携体制」という双方の土台をさらに強固にし、今後は卒業生たちの進路や活躍といった実態の追跡も含め、事業が生み出す成果をより一層充実・発展させていくことを目指します。

8年間の軌跡
（2018～2025年）



	応募者数	招へい者数
中国	663	50
中国（香港）	43	10
インドネシア	24,458	152
東ティモール	46	1
バングラデシュ	315	25
ブータン	74	14
インド	2,010	110
モルディブ	19	1
ネパール	64	18
パキスタン	3,381	27
韓国	369	57
ブルネイ	66	3
マレーシア	2,596	131
シンガポール	0	0
モンゴル	4,957	51
フィリピン	2,424	112
スリランカ	1,345	53
カンボジア	537	59
ラオス	531	53
ミャンマー	1,301	55
タイ	457	104
ベトナム	232	90
トルコ	352	22
イタリア	83	5
カナダ	23	5
フランス	72	6
アメリカ	79	6
イギリス	39	6
ドイツ	42	6
合計	46,578	1,232

プログラムの特徴

- アジアとG7各国の高校生を日本全国の高校に招へい
- ８年間で1,232人の海外の高校生と交流
- 日本各地でホームステイや寮生活をしながら、高校・高等専門学校に通学
- 休日には文化体験、地域交流、国内企業でのインターンシップ等

架け橋生出身地（計28か国・地域）

中国、韓国、モンゴル、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、フィリピン、インドネシア、スリランカ、インド、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、トルコ、香港、ブルネイ、ブータン、モルディブ、東ティモール、アメリカ、イギリス、イタリア、カナダ、フランス、ドイツ

プログラム実績（2018－2025）

来日生徒数
1,232人

出身国・地域
28か国・地域

滞在地（都道府県）
47都道府県

受入校
延べ833校（実数343校）

応募から来日まで－
各国組織との連携

来日６～７か月前

01 募集

各国のAFS事務所・協力団体が選考。厳しい成績基準等を設け、派遣国と日本の架け橋として活躍する意欲のある、将来のリーダー候補生を募集。

来日４～５か月前

02 選考

選考基準に沿って各国で面接を含む選考試験を実施（国によっては大使館の協力により面接試験を実施）。最終選考に残った応募者が提出した書類を日本側で審査し、最終合否を決定。

来日１～４週間前

03 来日前オリエンテーション

出発前に架け橋プロジェクトやAFS、日本について学ぶ。留学経験のあるの体験談やICL®（異文化学習）を通じて、日本留学に対する心構えを養う。大使館訪問を実施する国もある。

04 来日直前準備

査証申請は、架け橋生が適法かつ安全に本邦に入国し滞在できるように、AFS日本協会と各国関係団体が連携のうえ、申請手続きを支援。国際航空券手配。

タイの場合　実施団体 AFS Thailand

選考

４か国（タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム）の日本大使館と連携し、応募スケジュールを設定、応募者募集を実施しています。書類選考を通過した候補者は、大使館担当者とAFSタイ事務所とオンライン面接、その後最終選考に選ばれた候補者は、各国大使館とともに面接、選考を実施しています。

来日前オリエンテーション（オンライン）

第１回目はオンラインで実施。生徒と保護者に対し、プログラムの概要、目標、スケジュール、必要書類について説明し、次の段階に進む前に必要な事務手続きを明確に理解できるよう説明しています。

参加者サポートオリエンテーション

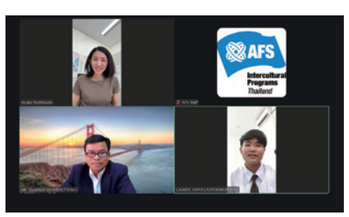
第２回目の来日前オリエンテーションでは、プログラムの重要な規定、規則、安全ガイドライン、およびAFSのサポート体制について説明しています。保護者には、タイでの対面での来日前オリエンテーションと生徒の日本への出発にあたり必要なビザの手続き、旅行の手配に関する説明をしています。

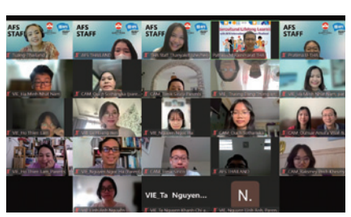
来日前オリエンテーション（対面）

タイで日本へ渡航前に、４日間合宿形式で実施、文化体験と卒業生からの指導を通して、生徒たちが日本での生活に備えることを目的として実施しています。オリエンテーションでは、プログラム規則の遵守が重視され、グループの結束が育まれ、最後に日本大使館主催の壮行会が行われた後、日本へ向けて出発しています。

帰国後オリエンテーション

帰国後、生徒たちはそれぞれの日本での経験を振り返り、気づきを共有するオリエンテーションに対面で参加します。オリエンテーションでは、将来のグローバル市民としての役割が強調され、日本大使館の代表者による修了証授与式で締めくくられます。





スリランカの場合
実施団体 Sputnik International, Srilanka

概要：AFSのグローバル提携団体であるスリランカでは、スリランカからアジア高校生架け橋プロジェクト＋に参加する学生を募集、選抜、準備するための体系的なプロセスを実施しています。

ステップ１：学生の出願と資格審査

ステップ２：日本語能力選抜テスト

受験生は以下の内容を含む日本語能力選抜テストを受けます。

- 口頭テスト・リスニングテスト・会話テスト
- 合格基準点（150点）を満たした受験者のみが、次段階の選考に進むことができます。

ステップ3：身体検査

受験生は健康状態と体力に関する検査を受けます。

ステップ４：面接と証明書確認

受験生は日本語と英語で面接を受けます。証明書およびその他の書類確認が行われます。

ステップ５：大使館面接と選考

選考を通過した学生は、最終面接のため日本大使館へ案内されます。学生を対面で確認します。

ステップ６：書類手続きと渡航前オリエンテーション

選考された学生の書類手続きが開始されます。渡航前オリエンテーションはスリランカで開催され、学生が日本での生活に備えられるよう準備が行われます。学生は日本大使館からビザとパスポートを受け取ります。

ステップ７：スリランカ帰国後オリエンテーション

日本から帰国後、学生たちは到着後オリエンテーションに参加し、経験や自身の成長について語り合います。

同窓生は、AFSアンバサダーとしての役割を再確認し、その理念やメッセージを社会へ発信する方法を学びます。プログラムコーディネーターは、学生の募集から帰国後のリフレクション（振り返り）にいたるまで一貫してサポート。参加生が異文化理解の担い手として自らの経験を広く共有できるよう、万全な準備と意欲的な働きかけを行っています。

来日後ー全国のAFS支部・学校と連携

移動地域別に
仕分けされた荷物

支部活動として
日本文化体験の様子

来日

05 オリエンテーション

日本語研修及び日本の文化・生活習慣、危機管理、衛生管理等に関する基本的な事柄等を指導。異文化における問題の対処法、食事のマナーや入浴方法、交通ルールなどについても指導を実施。

オリエンテーション開始前の様子

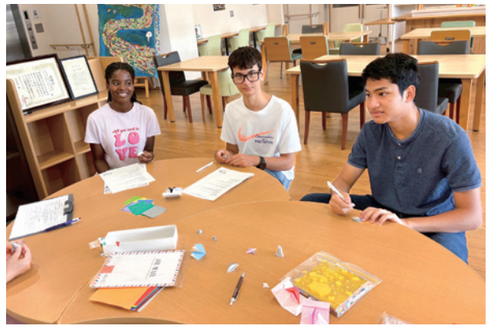
06 ホストコミュニティ移動

オリエンテーション終了後に配属先へ移動。

移動前日にスタッフから移動方法伝授の様子

07 ローカルオリエンテーション

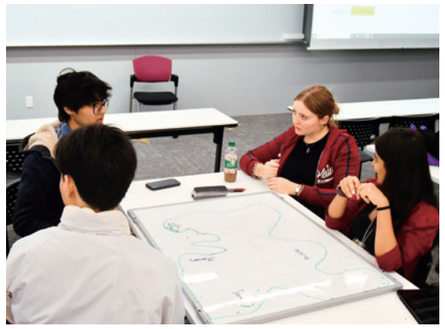
配属地に到着後、受入支部・地区にてオリエンテーションを実施。



支部でのオリエンテーションの様子

08 中間オリエンテーション

受入支部・地区が企画する滞在中オリエンテーションに参加。滞在地域における草の根レベルでの異文化理解の促進に寄与し、招へい生の出身国と本邦との架け橋として将来活躍する素地を形成。



オリエンテーションの様子

帰国

09 帰国直前オリエンテーション

各自の日本での体験を振り返るとともに、帰国後のスムーズな再適応を促すためのプログラム総括を行う。
日本での体験を架け橋生が振り返る機会を提供する他、各国の仲間とともに、母国と日本の文化の違いについて共有し合い、日本に対するさらなる理解を深める。

10 修了式・帰国

修了式を文部科学省講堂で実施。代表１名が日本語でスピーチ。渡航準備をして帰国。

11 帰国後 リ・エントリー・オリエンテーション

母国での再適応をサポートするとともに、コミュニティーでの日本体験紹介の準備をすすめる。

それゆけ！KAKEHASHIさん

2年4組　Panyoo, Chitsanupong さん（タイ）　ホストスクール　神村学園高等部
（パンユー・シサヌポン　ニックネーム：ボート）　鹿児島県いちき串木野市
（取材当時　2019年度架け橋生）現在：タイにて議員秘書として活躍中

8：30

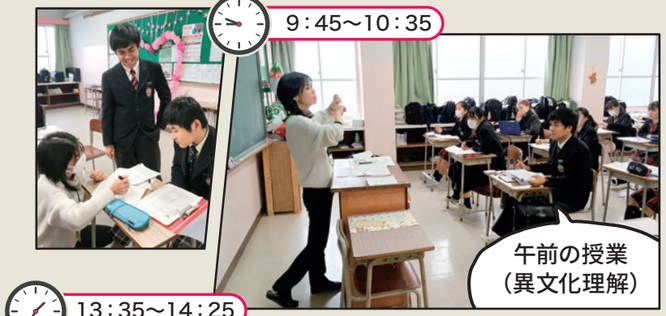
ホームルーム

7：00

1日のはじまり。

寮で掃除・朝食

9：45〜10：35



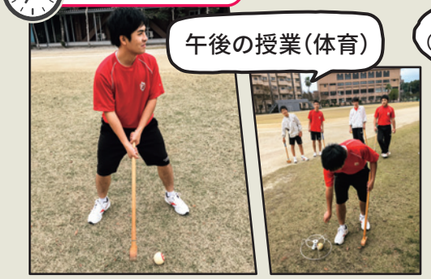
午前の授業（異文化理解）

合唱練習

10：45〜12：35

12月20日の音楽祭に向けて学年全員で。

13：35〜14：25



午後の授業（体育）

期末テストも終わり、みんなでゆっくりグラウンド・ゴルフ。

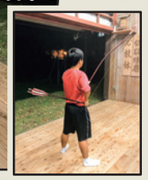
昼休み（食堂で昼食）

今日もしっかりおいしくいただきました！

12：35〜13：15

17：00

部活動



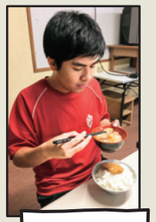
弓道部に所属。射法八節など礼儀から日本の心を勉強中。

寮内にて友達と。

19：30

同じ寮で中等部・高等部・専門学校の男子が共同生活をしています。

18：30



寮で夕食

20：00 お風呂 自習時間

23：00 就寝

帰国後の再会

先生との再会

ホストファミリーとの再会

架け橋生が参加した平和学習

広島 平和学習

AFS広島支部　川本 典子さん

2025年は被爆80年という年にあたります。原爆投下後、草木も生えないと言われた焦土にいち早く赤い夾竹桃（キョウチクトウ）が咲き、広島市民に復興の希望と勇気を与えてくれ、広島は素晴らしい復興をしました。

事前学習で原爆投下前の広島のビデオを見ていても、「ここは公園で良かったですね。」と言う留学生がいて、平和公園がとても綺麗に整備されているので、想像がつかないようです。「ここには市民が住んでいて、大勢の人たちが亡くなって、戦争のあと平和公園になったんだよ。」と説明しなくてはいけないのです。

平和公園では資料館見学や碑巡りをして、原爆について学びました。参加した中のアメリカの留学生たちは、原爆のことは知らなかったのには、驚きました。

80年という年月は、４世代に渡ります。あの日に居合わせた人（戦争体験者、被爆者）、その子ども、その孫、そしてひ孫。記憶の原点となる４つの世代をつなぎ、時代を超えて受け継ぐ想いをTシャツや活動記録の表紙のデザインにしました。私たちは、被爆者の方とまだお話が聞ける唯一の世代です。笠岡貞江さんの被爆体験をお聞きし、若い世代に語り継いでいらっしゃるお姿に胸が締め付けれました。まもなく、直接体験談を聞く事はなくなります。留学生たちは、平和についてそれぞれ意見交換をして、考えることができました。

また、今回も基町高校の生徒さん達による被爆絵画交流をしました。高校に訪問し、制作者のお話を聞きました。実際に被爆者の方からお話を聞き、当時の様子を絵にしていきます。見ていないことなので、絵にすることはとても大変で、何度も何度も描き直しながら、描いていきます。同じ高校生が描いた被爆絵画は、留学生たちにも心に残るものとなりました。

戦争は人を傷つけるもので、勝っても負けても何も良いことはありません。悲しみだけが残ります。

今も戦争が続いています。どうか一日も早く平和な世界になることを祈っています。留学生たちが母国に戻り、平和について考え行動して欲しいと思います。誰もが安心して過ごせる世界となりますように。

長崎 平和学習

AFS長崎地区　古川 千恵さん

“知る” 平和から、“実感する” 平和へ

活動目的

日本に滞在する架け橋＋生、AFS留学生を対象に実際の被爆地を訪れることで、戦争の悲惨さから平和の大切さについて学び、平和について自ら考え、振り返る機会にできることを目的にしています。

実施内容

留学生を対象に平和学習プログラムを実施し、長崎平和公園でのフィールドワークを行い、長崎原爆資料館資料館見学を行っています。戦争の歴史に触れることで、平和の大切さを理解してもらい、平和学習終了後は昼食を共にし、参加した留学生同士が平和学習の感想を共有するなど交流を深める時間も設けています。

最近の取り組み

過去２年間で、約15名の九州地域に滞在中の留学生が長崎での平和学習に参加しました。

2024年11月　８名（大分中部支部、熊本地区、長崎地区）

2025年10月　７名（福岡支部、大分中部支部、熊本地区、長崎地区）

留学生の声

「原爆についての知識は多少ありましたが、想像以上の悲惨さだった。」「暴力は解決にはならず、人々は尊重しあい、協力する必要があると感じた。」「より良いグローバル市民になるための一歩を踏み出すことができた」などの感想が聞かれています。母国に戦争の歴史を持つ生徒や原爆について学びたい生徒は熱心に資料を読む姿がみられます。戦争の歴史に対する関心の度合いは生徒によって差が見られますが、平和学習での交流や体験を通して、互いに理解を深めながら、共に生きていくための知識や視点を学ぶ機会となることを期待しています。

沖縄 平和学習

AFS沖縄地区　加藤 崇洋さん

戦争について語るときに私たちの語ること

みなさんの地域には、いわゆる「負の遺産」とよばれるような遺構はありますか？悲劇にまつわる場所を訪問するのは配慮が必要で、支部活動として取り入れづらかったり、留学生に説教臭く受け取られるのではないかと悩んだりすることもあると思います。今回は、こうした葛藤を前提に、それでもなお「負の遺産」と向き合う意味について考えてみたいと思います。

沖縄では、戦争遺構が日常の中に点在しており、意識するかどうかにかかわらず戦争の記憶と隣り合わせにあります。とはいえ、加害や被害の歴史に向き合うことは容易ではなく、とりわけ当事国の留学生とともに学ぶ場面では、言葉の選び方や伝え方に悩むことも少なくありません。それでは、私たちがリスクを避け、AFSの活動で戦争というテーマにあえて踏み込まないとしたらどうなるでしょうか。確かに、不用意に誰かを傷つけないという意味では、語ることを控える判断には一定の合理性があります。しかし、沈黙は必ずしも中立を意味しません。語らないことそれ自体が、「無関心」というメッセージとして受け取られてしまう可能性もあります。だからこそ私たちは、どう語るかに悩みながらも、言葉を探し続けていく必要があるのだと思います。

留学生とともに「負の遺産」と向き合うことは、異文化学習の観点からも有効な実践となります。一次資料に基づいて事実を記述し、敵味方など複数の立場から解釈を試み、それを検証しながら自分なりの理解を深めていく。このプロセスを通じて、同じ出来事を多面的に捉え、物事を構造的に理解する力が育まれていきます。また、異なる背景をもつ人々がそれぞれの受け止めを持ち寄り、対話すること自体にも大きな意味があります。すぐに結論が出るものではなくても、ともに考え続ける経験の積み重ねが、相互理解の土台になっていくのではないでしょうか。

地域の「負の遺産」を訪ねることは、私たちが日々の経験や失敗から学びを得ることと本質的には同じで、過去の出来事を成長へとつなげる営みだと思います。魅力的な側面だけでなく、その裏側にある問題や課題にも目を向けることで、私たちボランティア自身も地域をより立体的に理解することができます。そうした歴史という貴重な文化資産に学ぶ姿勢を、留学生と共有し、ともに問い続けることに、私たちの実践の価値があるように感じます。みなさんの地域でも、それぞれの文脈に応じた形で、こうしたテーマに取り組んでみてはいかがでしょうか。

公式プログラム
（2023年度～2025年度）

１．国際交流キャンプ

日本人の高校生と共に特定のテーマについて議論を深め、世界で解決しなければならない答えのない紛争や地球温暖化問題などを議論、本事業を通して、架け橋生と日本の高校生が互いに架け橋となり、地球上で起きている課題を解決するような次世代を担うリーダーになるように育成することを目指しています。2023年度から2025年度において帰国前に実施した概要を以下に記します。

2023年度：テーマ「人生設計」

実 施 日：2024年３月16日～21日
実施場所・形式：都内ホテル・対面
参 加 者：アジア架け橋プロジェクト＋１期生58名、日本人高校生30名
概　　要：

アジア架け橋プロジェクト＋１期生、25か国・地域からの58名は、帰国前に実施の「アジア高校生架け橋プロジェクト+」国際交流キャンプにおいて、全国13都道府県から参加した30名の日本人高校生がともに、「人生設計」を行いました。

参加前に事前課題として、１人１冊の「人生設計ノート」に具体的な自分の過去・現在・未来の人生やキャリアについてまとめ、人生設計をし、国際交流キャンプの最後には１人30秒で自分の目標や夢を宣言し、それに向かって自信を持って取り組む決意を示しました。

2024年度：テーマ「命の重さ」

実 施 日：2024年12月14日～17日
実施場所・形式：都内ホテル・対面
参 加 者：アジア架け橋プロジェクト＋２期生95名、日本人高校生30名
概　　要：

架け橋プロジェクト＋２期生、25か国・地域からの95名は、帰国前に実施の「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」国際交流キャンプにおいて、全国14都道府県から参加日本人高校生30名とともに、“命の重さ”をテーマに、皆、自分の国・地域の現状を共有し、今自分たちが取り組めること、取り組むべきことを真剣に語り合いました。

架け橋生の出身国・地域おいて、一人一人の「命の重さ」は平等か、置かれた状況や背景により大きく異なるのか、それぞれの文化、宗教、経済格差などから「命の重さ」について真剣に向き合い、それぞれの国や地域の置かれた状況を共有しました。その後、グループに分かれて多様な視点からの議論を進め、「命の価値」とは何かを深く考え、相互理解を深め、「命の尊厳」が守られる私たちの未来がどうあるべきか、共に考え、皆で協力し合い、一人一人の命の価値を高めるために地球市民として次世代がやるべきことを具体的に考え、具体案を発表しました。内容は、12月16日文部科学省講堂で実施された修了式においても発表を行いました。

2025年度：テーマ「未来への夢が世界を動かす」

実 施 日：2025年12月13日～16日
実施場所・形式：都内ホテル・対面
参 加 者：アジア架け橋プロジェクト＋３期生99名、日本人高校生59名
概　　要：

架け橋プロジェクト＋３期、25か国・地域からの95名は、帰国前に実施の「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」国際交流キャンプにおいて、全国44都道府県から260名の応募の中から選抜された、59名の日本人高校生ともに、「未来への夢が世界を動かす」をテーマとし、事前課題として、参加前に自己分析を行いながら、「帰国後に達成したい夢」をA４一枚に、自分の言葉でまとめ、交流キャンプにおいては、皆の夢を尊重しながら、互いが描く夢を聞き合い、それぞれの思い描く夢を語り合いました。

内容は、12月14日文部科学省講堂で実施された修了式においても発表を行いました。

２．表敬訪問

2023年度

実施日時：2024年３月19日（火）16時～16時20分
実施場所：文部科学大臣室
訪 問 者：12名
公益財団法人AFS日本協会　加藤 暁子 理事長
アジア高校生架け橋プロジェクト＋第１期修了生11名
概　　要：

盛山文科大臣（当時）へアジア高校生架け橋プロジェクト＋（プラス）第１期修了生の代表者11名が表敬訪問し、日本滞在約５か月の経験や学びなどについて、意見交換を行いました。

「日本で生活し、まだ知らなかった日本の文化に直接触れることができた。プロジェクトの名前どおり、帰国後も母国と日本の架け橋となりたい。日本に留学する機会と支援を頂いたことに心から感謝している。」
（ベトナムの修了生）

「友達がみな優しく接してくれたことが一番印象に残っている。」（カンボジアの修了生）

「部活動を一緒に体験したことが楽しかった思い出になっている。」（イタリアの修了生）

など、滞在中の高校生活や、再度の日本留学など帰国後の展望について話しました。

盛山文科大臣（当時）より、約40年前にOECD（パリ）に派遣されていた頃に出会った方々との繋がりを今でも大事にしていることに触れていただき、「日本で出会った人と人とのつながりを、この先も大切にしていただきたい。また、帰国されてから、日本で学ぶ機会があることを後輩たちにも伝えてほしい。」と話し、皆さんが両国の架け橋となって活躍されることへの期待が伝えられました。

2024年度

実施日時：2024年12月16日（月）11時30分～12時
実施場所：文部科学副大臣室
訪 問 者：11名
公益財団法人AFS日本協会　加藤 暁子 理事長
アジア高校生架け橋プロジェクト＋第２期修了生10名
概　　要：
武部文科副大臣（当時）へ、アジア高校生架け橋プロジェクト＋（プラス）第２期修了生の代表者10名が表敬訪問をし、日本滞在約５か月の経験や学びなどについて、意見交換を行いました。

「学校で友達がたくさんできたことが一番の思い出。体育祭や小学校での英語プログラムに参加したことなど、様々なことが印象に残っている。」
（スリランカの修了生）

「日本の高校での生活を通して、時間を大切にし、計画的に行動することを学んだ。」
（インドネシアの修了生）

「滞在した高校と母国の高校を繋ぎ、両国の架け橋のような存在になりたい。」（モンゴルの修了生）

など、滞在中の高校生活や、大学で日本に再度留学すること等を含めた帰国後の展望について話をしました。

武部文科副大臣（当時）は、自身が子供の頃の海外でのホームステイ、留学をした経験にも触れられ、「初めて海外に滞在したとき、海外の友達を増やしていきたいと思ったことを覚えている。日本と皆さんの国との間の結びつきをより強くしていってもらいたい。」と話し、修了生が将来両国の架け橋となって活躍されることへの期待を伝えるとともに、「日本の子供達が皆さんの国へ留学することについても、応援している。」と述べられました。

３．修了式

国際交流キャンプの最終日に文部科学省の講堂に集まり、修了式が執り行われました。文部科学省、AFS日本協会の各代表の挨拶の後、各架け橋生に対し文部科学省より修了証書が授与されました。これを受けて架け橋生代表がスピーチを行い、全員で記念撮影後、閉会となりました。

2023年度

開催日時：2024年３月18日（月）10時～11時
開催場所：文部科学省３階第一講堂
修了書代表授与：
- アスリ・ハルカ・カワマタさん
（Kawamata Ashlee Haruka Ycong（Ms.））
（フィリピン／新潟県立新潟商業高等学校）
- 修了生挨拶代表　プッタラック・ポマサネさん
（PHOMMASANE Phutthakack（Ms.））
（ラオス／西南女学院中学校・高等学校）

2024年度

開催日時：2024年12月16日（月）10時～11時
開催場所：文部科学省３階第一講堂
修了書代表授与：
- スカマラン・エシャさん（Sukamaran Eshaa（Ms.））
（マレーシア／サビエル高等学校））
- 修了生挨拶代表　ヤオ・シャオさん（Yao Xiao（Mr.））
（中国／鹿児島情報高等学校）

2025年度

開催日時：2025年12月15日（月）10時～11時
開催場所：文部科学省３階第一講堂
修了書代表授与：
- アン・ジミン（An Jimin（Ms.））さん
（韓国／石川県立金沢桜丘高等学校）
- 修了生挨拶代表　タ・ビエット・バック（Ta Viet Bach（Mr.））さん
（ベトナム／同志社香里高等学校）

４．受入高校教員振り返り会

2024年度、2025年度において、次年度へ生かすため、学校現場において良かったこと、課題となったこと等、さまざまなご意見を受入高校の先生方へ忌憚なく語っていただき、次年度へのさらなる飛躍につなげることを目的に、実施しました。

各年度の実施内容概要を以下に記します。

2024年度

実施日時：2025年３月26日13時～15時
実施場所・形式：オンライン・ズーム（含む課題別分科会）
参 加 者：アジア架け橋プロジェクト＋２期生受入高校教員、AFS関係者

概　　要：

2025年３月26日、オンライン（ズーム）にて「2024年度アジア高校生架け橋プロジェクト＋第２期生受入校教職員振り返り会」を開催しました。本会は、2024年度の架け橋生受入を振り返り、次年度以降のより良いプログラム実施および改善を目的として実施されました。

当日は、全国26校の受入校教職員をはじめ、文部科学省関係者、AFS日本協会職員が参加しました。前半では文部科学省およびAFSからの挨拶・事業報告に続き、新潟県立新潟高等学校、島根県立隠岐島前高等学校による実践事例発表が行われ、校内での架け橋生受入までの準備・体制および、地域および自治体と連携した架け橋生受入事例が紹介されました。後半は、「在校生への影響」「日本語支援」「学校生活」の３テーマに分かれた分科会をズーム内でのブレークアウトルーム形式で実施しました。各校の工夫や解決に向けた提案が活発に意見交換され、参加者同士の学び合いの場となりました。

2025年度

実施日時：2026年３月７日13時～17時

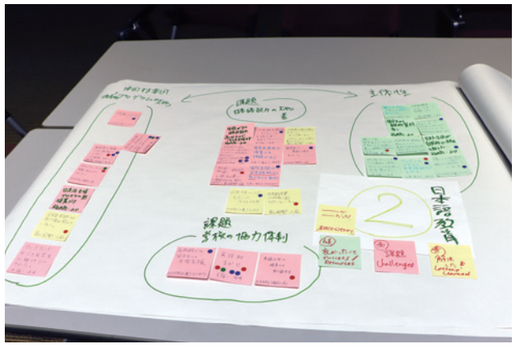
実施場所・形式：文部科学省３F講堂

参 加 者：アジア架け橋プロジェクト＋３期生受入高校教員、AFS関係者

概　　要：

2026年３月７日、文部科学省講堂にて「2025年度アジア高校生架け橋プロジェクト＋第３期生受入校教職員振り返り会」を開催しました。本会は、2025年度の架け橋生受入を振り返り、受入校間での好事例や課題を共有し、次年度以降のより豊かな国際交流につなげることを目的として実施されました。

当日は、全国26校の受入校教職員をはじめ、文部科学省関係者、ファシリテーター、AFS日本協会職員が参加しました。前半では文部科学省およびAFSからの挨拶・事業報告に続き、高槻高等学校、愛媛県立松山東高等学校による実践事例発表が行われ、校内体制づくりや地域と連携した国際教育の取組が紹介されました。後半は、「在校生への影響」「日本語支援」「学校生活」の３テーマに分かれた分科会を実施しました。架け橋生受入れによる多様性理解の向上や学習意欲への好影響が共有される一方、日本語支援体制の不足、ホストファミリー確保、校則と多様性の両立といった課題も明らかになりました。各校の工夫や解決に向けた提案が活発に意見交換され、参加者同士の学び合いの場となりました。



「命の重さ」を語り合った国際交流キャンプ

「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」になって変わったことは、帰国前にアジアやG７のアジア架け橋＋生と日本人高校生が参加する「国際交流キャンプ」を始めたことだ。2024年の国際交流キャンプでは「グローバル・ハイスクール・サミット」を開き、「命の重さ」について議論した。

サミットでは、戦争や移民問題、宗教対立、経済危機、さらには地球温暖化による自然災害などによって世界各地で日々失われる命の現実に向き合い、世界中の人々の命の重さが平等になるにはどうしたらいいのか。そのために、次世代が果たすべき行動は何かを具体的に議論した。

そして、円卓を囲み「世界サミット」を開き、「世界中の同世代が直面している紛争や苦難は、私たちが生み出したものではない。過去は許されるべきだが、忘れてはならない。憎しみは私たちの世代で断ち切り、国や地域、宗教、価値観など、様々な違いはあっても皆平等であり、この想いは、私たちを明るい未来へと導いてくれると信じている」という宣言文をまとめた。

世界サミットで宣言文を協議

インドとパキスタンの留学生は「国境での紛争が絶えなくて、双方の国の人々は お互いを嫌いになる教育を受けてきた。次世代の私たちは、その歴史を繰り返してはいけないということを共に日本で学び、考えることができるようになった」と発言し、他の国々の留学生や日本の高校生から拍手喝さいを浴びた。

帰国後厳しい現実が待ち受けている留学生に対して、紛争が身近にない日本の高校生は、世界の現実がいかに不平等であるかを学ぶことができた。そして、留学生が母国に帰り、くじけそうになった時、いつでもSNSを通して話し合える仲間ができたことに気づくこととなった。世界の留学生が集い、日本の高校生が世界の現実を学ぶこの国際交流キャンプの意義は深い。

日本で社会人となったミャンマー生

2021年２月にミャンマーでクーデターが起こり、あと１か月で帰国を控えていたミャンマーからのアジア架け橋３期生14人は、人道上の理由から日本に残留をすることを決めた。そして、ホストファミリーやホストスクールの好意で高校生活を全うして受験に臨み、奨学金を得て、立命館アジア太平洋大学（APU）、早稲田大学、北海道大学、静岡大学、札幌国際大学にそれぞれ入学した。

大学生活では、専門分野の学びのほか、サークルやボランティア活動、またアルバイトをして本国の家族に仕送りをするなど忙しい４年間を過ごした。中には、両親が失業したり、自宅が焼き討ちにあったりする例もあり、ぐるなびの滝久雄取締役会長に生活費を４年間支援していただいた。

APUを今年３月卒業した５人は、それぞれ日本でホテル、アパレル、コンサル、メディアに見事、就職を果たした。アン・カン・ニャー・ボ（通称エリック）さんは、コーチ京都店に配属された。店での接客業に加えて、ビジュアル・マーチャンダイジングのチームに抜擢され、店のインテリアに携わっている。エリックはアジア架け橋生の時、ヤンゴンの家族全員がコロナに罹患して生活が苦しくなり、大学進学をあきらめたのだが、学費全額免除の奨学金を得て４年間勉学やクラブ活動でダンスを極め、ファッションにも興味を持つようになった。

「アジア架け橋は、私の新しい人生の扉を開けてくれました。社会人になって両親を楽にさせたい。そしていつか祖国のために貢献したい」と話す。

一方、フォーシーズンズホテル大阪のゲストエクスペリエンス兼フロントラインアンバサダーのモー・ピント・プーさんは、入社わずか２か月で宿泊客から優秀な社員として推挙された。

ジン・ワイ・トンさんは、中小企業向けの経営コンサルの仕事に従事している。「最初は大変でしたが、中小企業の海外進出の手伝いや企業経営全般の支援をしています。やりがいのある仕事です」と意気込む。

ミャンマー生たちはいつか家族のもとに帰国できる日を夢見て、自分の足でしっかり立って新たな未来への挑戦が始まった。

APU卒業式のミャンマー生

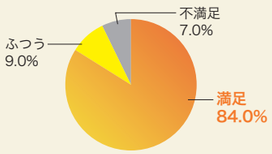
事業への満足度

アジア高校生架け橋プロジェクトでは、架け橋生のプログラム修了時に受入校・架け橋生を対象に調査を実施しています。交流の満足度や目標到達度を総合的に判断し、サポートやプログラムの改善につなげています。さらに、帰国一年後の調査によって、留学プログラムの中期的な影響を確認しています。

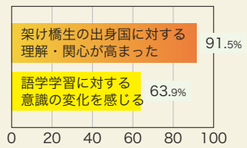
満足度

受入校

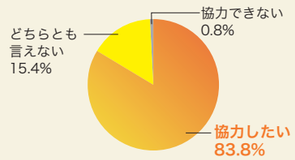
架け橋生受入体験への満足度



在校生への影響

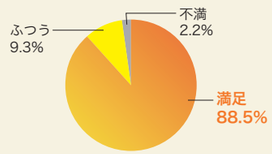


今後の受け入れ

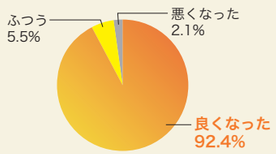


架け橋生

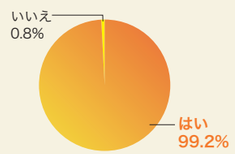
日本の高校生との交流満足度



日本の印象の変化



帰国後、学校や地域で日本を紹介した



	年度	期間	架け橋生数	滞在地	受入校
2023－2025「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」	2025年度（3期生）	5か月	100人	37都道府県	82校
	2024年度（2期生）	5か月	100人	36都道府県	80校
	2023年度（1期生）	5か月	58人	22都道府県	42校
2018－2022「アジア高校生架け橋プロジェクト」	2022年度（5期生）	10か月	247人	42都道府県	163校
	2021年度（4期生）	6か月	249人	42都道府県	168校
	2020年度（3期生）	5か月	178人	40都道府県	108校
	2019年度（2期生）	8か月	200人	37都道府県	121校
	2018年度（1期生）	6か月	100人	36都道府県	69校

＊2020年度～2021年度は、新型コロナウイルスの影響で来日延期となったため、滞在期間が短縮されました。

5つの効果

1. 多くの日本の高校生が、**海外に行かずして教室で国際交流**を経験

   1クラス40人×1,232人＝49,280人への効果が期待できます。

2. 日本の高校生の**留学意欲や国際的素養**の向上

   英語に自信がなくても、架け橋生と日常的に交流できます。

3. アジアとG7各国の高校生が、日本の**生きた「教育」「文化」**などを体験

   数学・英語・家庭・書道が人気。部活にも挑戦します。

4. 日本とアジアの**高校ネットワーク**の構築

   日本と母国の高校をオンラインで結び、交流した生徒もいます。

5. 互いの国に精通した**リーダー、架け橋となる人材の育成**

受入高校アンケート

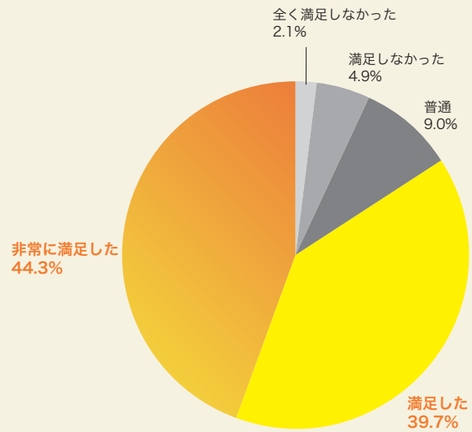
85%が満足（満足または非常に満足）と回答

8か年の上位受入都道府県（実数）

① 神奈川県121名　② 北 海 道109名　③ 大 阪 府103名
④ 愛 知 県 83名　⑤ 福 岡 県 81名　⑥ 東 京 都 69名

＊下記、グラフ等の割合は2018年度から2025年度までの８年間の集計結果を、記述式箇所は2023年度から2025年度アンケート内容を記す。

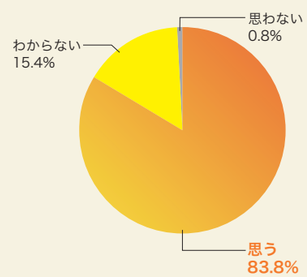
1-1 架け橋生受入体験への満足度



1-2 満足度の決め手となった要因（記述式：一部抜粋）

- 学校生活すべてに熱心に取り組み、本校生徒へ良い影響を与えてくれた。
- 真面目、優秀、礼儀正しい、生徒との交流に意欲がある、学校への貢献度が高い。
- 架け橋生が日本に興味があり、言語や文化を積極的に学ぼうとする姿勢が良かったため。
- 日本語がわからなくても留学し、前向きに学び、コミュニケーションを取って周りから愛される人柄や姿勢が本校生徒に好影響を与えてくれた。
- 生徒が国際交流を実体験できたから。
- 在校生だけでなく、教員、地域の方々にとっても、架け橋生の来島は貴重な機会となったため。
- 学校の教育方針に生徒がよくしたがってくれた。
- 受け入れたことによってできた経験などについては非常に満足しているが、受け入れた生徒の立ち居振る舞いや周囲に起きた事象、その対応については不満が勝ったため。
- 異なった文化の国から来日して、長期に渡り共に過ごすことでしか得られない体験が、本校の生徒にとっても非常に良い時間となりました。
- 本校としてはほぼ初めての架け橋生の受け入れでノウハウはなかったが、AFS様やLPさんの支え、ホストファミリーに恵まれたことや、本校生徒が温かく接してくれたこと、そして何より本人が明るく意欲的に何にでもチャレンジしてくれたことで、受け入れた本校生徒にとってもとても多くのことを学ぶ機会となったように思うから。
- 学年男女問わず友達をつくっており、本校の生徒にとっても異文化理解が深まる大きなきっかけになってくれた。
- 架け橋生に不満はありませんが、受け入れ期間が短いため、架け橋生のことを理解しきれない部分があり、また架け橋生にとっても学校や日本を理解しきれていないと思います。

1-3 今後も架け橋生を受け入れたいと思われますか



1-4 1-3の理由を記述（記述式：一部抜粋）

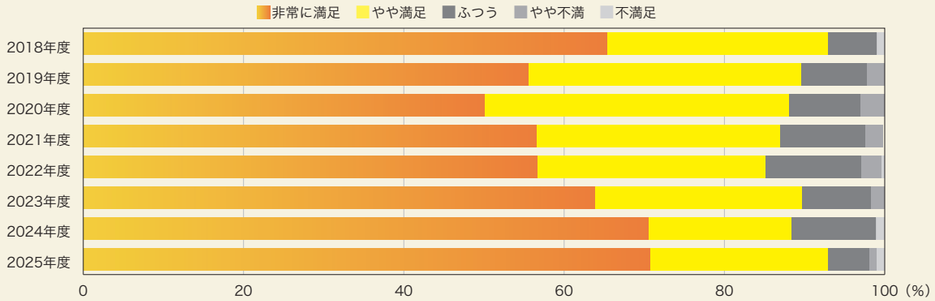
- 今まで受け入れたことへの後悔がないから。
- 架け橋生の出身国の文化に触れることができ、生徒の視野や異文化理解が深まるため。
- 普段の学校生活の中で、グローバル化を当たり前と思う環境を作ることは重要である。
- 本校の生徒の異文化交流のため、そして別のプログラムで本校に留学する架け橋生の助け合い、切磋琢磨のため。
- 学校生活での姿勢や態度、学習意欲などが大変良かった。
- 継続することで、文化が醸成されるから。
- 異文化理解だけでなく、日本文化の再発見や英語学習への動機づけにもつながり、教育効果が高いと感じました。
- 在校生が海外に目を向ける良い機会となったから。
- 学校の雰囲気が大きく変わるから。
- 本校は、国際交流に興味がある生徒が多いですし、留学したくても経済的な理由などで留学ができない生徒には絶好の国際交流の機会となる。アジアからの架け橋生は英語もできるし、優秀な生徒が多いため、同じアジア人として生徒には良い刺激となる。
- 生徒に world citizen としての自覚と意識をもってもらいたい

帰国前アンケート

90%が満足（満足または非常に満足）と回答

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
回答数(N)	98	173	167	214	235	58	95	99
架け橋生数	100	200	178	235	241	58	100	100
回答率	98.0%	86.5%	93.8%	91.1%	97.5%	100.0%	95.0%	99.0%

【日本の高校生との交流】



最も多かったのは８年連続で「非常に満足」であり、いずれも50%以上でした。「やや満足」「非常に満足」を合計すると、およそ９割の架け橋生が日本の高校生との交流に満足しました。

感染症拡大に伴い、2019年度は約３週間早い帰国となり「友だちにあいさつやお礼が伝えられなかった」架け橋生も多数いました。2020年度は来日遅延にともない、プログラム期間が10か月から４か月に短縮されました。こうした状況にもかかわらず、両年とも「非常に不満」は０%で、「やや不満」は2.3%（2019）、3.0%（2020）に留まりました。

【日本語検定試験結果】

レベル／年度	2019	2022	2024	2025
N5	56.6%(60)	72.4%(62)	45.0%(18)	38.1%(16)
N4	51.2%(22)	80.0%(60)	50.0%(10)	50.0%(9)
N3	80.0%(16)	75.0%(33)	56.3%(9)	50.0%(11)
N2	42.1%(8)	68.0%(17)	42.3%(3)	55.6%(5)
N1	33.8%(3)	77.7%(7)	75.0%(9)	57.1%(4)

2018年は任意受験、2019年、2022年、2024年、2025年は全員受験とした。
括弧内は合格者数
2020年度（３期生）、2021年（４期生）以降は、コロナウイルスの影響で来日遅延となり、申込期間に日本に滞在していなかったため受験しませんでした。

＊JLPT：日本語を母語としない人を対象とした語学検定試験で、５段階のレベル（N１～N５）があり、言語知識、読解力、聴解力を測る。年２回、国内外で実施される。

【参考】日本語能力試験 JLPTの受験結果
2018年度は任意で、2019年度、2022年度、2024年度、2025年度は全員が「日本語能力試験 JLPT*」を受験し、2019年度の合格率は一部級をのぞき、55%前後でした。来日４か月目の受験となり、日本語初学者はN４～N５に、学習経験者の多くはN２～N３に挑戦しました。
2022年度の合格率は、各級とも平均して70%となり、架け橋生は、国内受験者の認定（合格）率を大幅に上回る結果となりました。
2024年度の合格率は54%程度、2025年度の合格率は50%程度と、来日４か月がたたない時期での受験にかかわらず、各級とも国内受験者の認定（合格）を上回るもしくは同等の結果となりました。

帰国後1年後アンケート（2018年度～2024年度帰国生調査結果）

帰国から１年が過ぎ、母国で留学体験を客観的に捉えることができるようになった修了生が、日本とどんな関係を築いているのか、進学状況もあわせて調査しました。

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
回答数(N)	94	125	113	131	169	33	41
架け橋生数	100	200	167	238	243	56	100
回答率	94.0%	62.5%	67.7%	55.5%	69.5%	58.9%	41.0%

【日本の印象変化】

満足度／年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
とても良くなった	68.1%(64)	71.2%(89)	64.6%(73)	67.9%(89)	78.1%(132)	93.9%(31)	73.2%(30)
少し良くなった	23.4%(22)	22.4%(28)	23.0%(26)	25.2%(33)	16.0%(27)	6.1%(2)	14.6%(6)
変わらない	6.4%(6)	4.0%(5)	9.7%(11)	3.8%(5)	4.1%(7)	0.0%	12.2%(5)
少し悪くなった	2.1%(2)	2.4%(3)	1.8%(2)	3.0%(4)	1.8%(3)	0.0%	0.0%
とても悪くなった	0.0%	0.0%	0.9%(1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

帰国から一年が経って、日本の印象が「良くなった」と答えた修了生は平均して９割近くにのぼりました。
主な魅力として記述されていたのは、主に以下５点に分けられます。

人間関係：優しさ、親切さ、学校生活、ホストファミリー、寮生活で出会った人々の良い印象
環　　境：学校教育、環境・公共衛生、技術（交通等）、受け入れ地域への愛着
社 会 性：時間厳守、規則厳守、金銭を含む自己管理、他者への思いやり（迷惑をかけない）
自身の成長：語学やコミュニケーション能力向上、異文化適応能力（食・天候・環境・人間関係）
日本理解：来日前とプログラム体験後で日本や日本文化の理解が広く深くなったこと

「私が出会った日本人は皆とても親切で、私と友達になりたいと思ってくれて、受け入れてくれました。」（＋１期生）

「とても悪くなった」「少し悪くなった」と答えた修了生について、「少し悪くなった」と答えた修了生は、次のように説明しています。

「広島平和記念公園の訪問や被爆者との平和学習など、プログラム中に体験したことは、世界平和のために働き、それにふさわしい職業に就きたいという志につながりました。滞在中、日本人の方々からたくさんの親切を受け、本当に感謝しています。一方で、肌の色が黒い外国人ということで、かなりの差別にもあったので、日本に対するイメージは少し悪くなりました。でも、プログラムのおかげで、日本の文化や教育制度に慣れ親しみ、言葉も覚えたことから、進学先として他の国ではなく日本を選びたいという気持ちが強くなりました」（３期生、インド）

「日本人は親切で優しかったけれど、皆が皆そうではなかったから。」（５期生）

【学校や地域での日本紹介を行なったか】

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
はい	98.9%(93)	100%(125)	99.1%(112)	99.2%(130)	98.8%(167)	97.0%(32)	100%(41)
いいえ	1.1%(1)	0.0%	0.9%(1)	0.8%(1)	1.2%(2)	3.0%(1)	0.0%

実に99％の修了生が、帰国後に母校、地域、SNS、ビデオ投稿サイト、地元TV・ラジオ・新聞などのメディア、イベント出演によって、「ASIA KAKEHASHI」の意義や日本の高校生活を紹介しています。

「学校の友達や家族に私の体験を伝えました。勉強したことや体験したことの写真を見せました。彼らはびっくりして「日本に１度行きたいなー」と言いました。その他に、私は日本の生活のビデオをしてSNSで投稿しました。リアクションは多かったです！」（５期生）

「日本人に対して、好感を持ってもらえました。」（＋１期生）

「帰ったら学校のウェブで文章も書いた。みんなが流石に羨ましいって言いました」（＋２期生）

【日本語学習の継続】

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
はい	72.3%(68)	70.4%(88)	66.4%(75)	76.3%(100)	76.3%(129)	97.0%(32)	78.0%(32)
いいえ、でも勉強したい	24.5%(23)	27.2%(34)	29.2%(33)	20.6%(27)	−%	−%	−%
いいえ	3.2%(3)	2.4%(3)	4.4%(5)	3.05%(4)	23.7%(40)	3.0%(1)	22.0%(9)

レベル／年度	2018	2019	2020	2021	2022	2024
なし	31.9%(29)	23.0%(28)	67.3%(72)	51.2%(67)	−%	−%
N5	17.6%(16)	26.2%(32)	11.2%(12)	18.3%(24)	38.5%(65)	43.9%(18)
N4	14.3%(13)	23.8%(29)	10.3%(11)	12.2%(16)	23.1%(39)	22.0%(9)
N3	16.5%(15)	14.8%(18)	4.7%(5)	4.6%(6)	17.2%(29)	14.6%(6)
N2	13.2%(12)	9.0%(11)	4.7%(5)	8.4%(11)	13.6%(23)	4.9%(2)
N1	6.6%(6)	3.3%(4)	1.9%(2)	5.3%(7)	7.7%(13)	14.6%(6)

日本語学習は、意識して継続している生徒が約８割以上います。日本の大学進学を希望する修了生も約８割にのぼり、日本の大学入学を目指す修了生にとって、日本語学習の継続は再来日の要件であると言えます。

【日本で出会った友人と連絡を取り合っているか】

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
はい	80.9%(76)	74.4%(93)	86.6%(97)	98.4%(128)	98.8%(167)	100.0%(33)	97.6%(40)
以前はしていたがいまはしていない	18.1%(17)	25.6%(32)	12.5%(14)	0.0%	−%	−%	−%
いいえ	1.1%(1)	0.0%	0.9%(1)	2.2%(3)	1.2%(2)	0.0%	2.4%(1)

平均すると、89.8%の修了生が、帰国１年を経て、友人との接点を保ち続けています。連絡手段は、LINEなどのチャットアプリやInstagramなどのSNSが主です。

【日本の家族、教師や友人による母国への訪問】

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
はい	21.3%(20)*	0.0%	0.0%	12.5%(16)	85.2%(144)	69.7%(23)	22.0%(9)
訪問予定あり	23.4%(22)	43.2%(54)	43.8%(49)	0.0%	−%	−%	−%
いいえ	55.3%(52)	56.8%(71)	56.2%(63)	87.5%(115)	14.8%(25)	30.3%(10)	78.0%(32)

2018年度生100人のうち、少なくとも20人が、帰国後１年以内に日本からの訪問を受け再会が実現しています。主に、ホストファミリー、教員、友だち（修学旅行を含む）です。ホストファミリーと教員が別々に訪れたというマレーシア生もいました。2019年度（2020年３月帰国）からは、海外渡航が厳しく制限されたため、実際の訪問には至っていません。2021年度生より徐々に再開がされ、かなり高い割合で再会が現実となったことがうかがえます。コロナ渦以降、2022年度以降は計画も含めると、９割程度が再会を叶えています。

スピーチコンテスト等の受賞実績

～受賞：スピーチコンテスト／作文コンクール等～

2018年度

●蘇 羽佳（中国、八戸聖ウルスラ学院高校）**「私たちは親友になれるかな」**
「第28回外国人による日本語スピーチコンテスト」茨城県知事賞／若人賞（主催：茨城県国際交流協会）

●ヒーン・ペンチャン（カンボジア、八戸聖ウルスラ学院高校）**「日本語おもしろい」**
「第28回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：盛岡ゾンタクラブ）エフエム岩手賞

●パンハヴォワン・レス（カンボジア、奈良県立高取国際高校）**「言語と世界観」**
「第28回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」（主催：奈良県国際教育研究協議会）会長賞

2019年度

●テルゲル・ドルジスレン（モンゴル、サビエル高校）
①最優秀賞 **「天使の夢」**
「第30回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：日本国際連合協会山口県本部）

②優勝 **「私は日本の文字に興味を持っています」**
「第一回日本語作文コンクール」（主催：モンゴル国営モンツァメ通信社）

●アビヨガ・プラタマ（インドネシア、奈良県立高取国際高校）
会長賞「第29回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」（主催：奈良県国際教育研究協議会）

●ヒラン・カルナーラトナー（スリランカ、英数学館高校）
優秀賞「第19回外国人による日本語スピーチ大会」
（主催：国際交流ボランティア・フィーラス華、尾道市国際交流推進協議会）

●プラナブ・チョウドリー（インド、大阪府立北野高校）
優秀賞 **「私は日本でインドを見つけた」**
「第27回高校留学生の日本語による体験発表会」（主催：大阪府高等学校国際教育研究会）

●ドアン・ミン・イエン（ベトナム）
「2020-2021ホーチミン市優秀学生コンテスト」日本語部門　優勝

2020年度

●ギアン・ケネス・カスリヤノ（フィリピン、愛媛大学附属高校）**「日本留学までの道のり」**
「第17回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2020」（主催：愛媛県留学生等交流推進会）特別賞

●グエン・ホン・アン（ベトナム、帰国後の参加）
「第７回法政大学日本語スピーチコンテスト」高校部門　選抜参加者

2021年度

●ヤン・シンタオ（中国、札幌静修高校）**「初めての友達」**
特別賞「日本語スピーチコンテスト in SIU」（札幌国際大学主催）

●イアン・カルロ・コルテス（フィリピン、岩田高校）
「日本語を学んで見えてきたもの」
招待弁士・記念表彰「福澤諭吉記念第60回全国高等学校弁論大会」（主催：中津市）

●ラセンドリヤ・アラダナ・アジ（インドネシア、桜井高校）
「めっちゃおもろいやん、関西弁」
会長賞「第30回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」

●ハ・アン・グエン（ベトナム、神村学園高等部）
奨励賞「第27回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：鹿児島県国際交流協会）

2022年度

●エルヘムバヤル・イェスイ（モンゴル、サビエル高等学校）**「光へ」**
第33回「外国人による日本語スピーチコンテスト」優秀賞（主催：日本国際連合協会山口県本部）

●ザフィラ・アリフィア（インドネシア、札幌日本大学高等学校）**「私の髪はどこ？」**
第４回スピーチコンテストin SIU　特別賞

●チャン・トゥー・フエン（ベトナム、立命館慶祥高等学校）
「日本語もマスクをしています」 第４回スピーチコンテストin SIU　第２位

●ボロル・オユト（モンゴル、釧路明輝高等学校）**「わたしはマリモ」** 英語朗読大会第１位

●ブンロード・パーリヤ（タイ、旭川藤星高等学校）**「私の夢」**
旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会　旭川ユネスコ協会奨励賞

- **チャウジャー・チャンドラカン**（マレーシア、北海道旭川永嶺高等学校）
  「第二次世界大戦の原子爆弾」
  旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会　旭川ユネスコ協会長賞

- **スックフーマライ・ディップター**（ラオス、旭川明成高等学校）**「日本での私の経験」**
  旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会　旭川ユネスコ協会長賞

- **アルッゲラダ・ビナディイヌパマー**（スリランカ、北海道立東川高等学校）
  「17歳の交換留学生」
  旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会　旭川ユネスコ協会長賞

- **アイウンボルド・アノダリ**（モンゴル、旭川明成高等学校）
  「ホームステイと寮で感じたこと」
  旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会　旭川ユネスコ協会長賞

2024年度

- **ヌール・ダニシャ・ダミア・シャハルー・アズアン**
  （マレーシア、広島女学院高等学校）
  「世界平和弁論大会」優勝
  （主催：公益財団法人ヒロシマ・ピース・センター）

2025年度

- **ユーゼン・オウ**（中国、大阪国際高校）
  「第64回外国人による日本語弁論大会」入賞及び昭島市長賞
  （主催：昭島市、国際交流基金、国際教育振興会）

日本の大学への進学実績

帰国後の進路調査

- 実施時期：2026年３月
- 対　　象：2018年度～2025年度参加生徒1,232名

帰国後来日歴・再来日理由

来日歴あり **35**% 来日理由：留学 **33**% 日本への再留学希望 **96**%

日本語学習継続

継続している **70**%

日本の大学への進学実績　＊順不同

国公立：東京大学、京都大学、大阪大学*、北海道大学、一橋大学*、筑波大学、東北大学、茨城大学、信州大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、静岡大学、神戸大学*、兵庫県立大学、岩手大学、岡山大学*、九州大学*、鹿児島大学、横浜市立大学、大阪公立大学、弘前大学、舞鶴工業高等専門学校、熊本工業高等繊毛学校*、豊田技術科学大学

私立：慶応義塾大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学*、立命館アジア太平洋大学(APU)*、東洋大学、亜細亜大学、南山大学、広島女学院大学、福岡女子大学、京都外国語大学、京都先端科学大学、札幌国際大学、東京国際大学、京都外国語大学、岡山理科大学、大阪女学院大学、北海道文教大学、文化学園大学、帝京大学、多摩美術大学、武蔵野大学、大成学院大学他

*印＝日本政府の国費外国人留学生および奨学金留学生

専門学校他：東放学園映画専門学校*、文化外国語専門学校*、日本デザイナー学院*、大原簿記法律観光専門学校金沢校、東洋美術専門学校*、東京中央日本語学校、ドレスメーカー学院、ECCコンピューター専門学校、富山リハビリテーション医療福祉大学校他

母国大学における日本語・日本文化など日本関連領域専攻及び就職　＊順不同

- 韓国：カトリック大学校日本語日本文化専攻
- インドネシア：国立インドネシア大学日本語学部
- ラオス：ラオス国立大学文学部日本語学科、在ラオス日本国大使館広報文化班現地職員
- マレーシア：帝京マレーシア日本語学院
- カンボジア：王立プノンペン大学外国語学部日本語学科
- タイ：国立キングモンクット工科大学ラーカバン校 教養学部日本語学科、国立コンケン大学教育学部日本語教育課程、泰日工業大学
- ベトナム：国家大学日本語専攻 、ダナン外国語大学

海外留学（母国以外）　＊順不同

- 米国：Minerva university、University of Cincinnati、Swarthmore College、City University of New York、Lewis & Clark College、Bucknell University
- カナダ：Centennial College of Applied Arts and Technology
- フランス：IUT de Roanne
- 英国：University College London、Durham University、University of Birmingham
- アイルランド：University College Cork
- オーストラリア：University of Technology Sydney、Griffith University、Monash University、Greystone College Sydney
- オーストリア：University of Vienna
- ドイツ：Frankfurt School of Finance and Managemen
- トルコ：Hacettepe University
- ハンガリー：Budapest University、University of Debrecen
- ロシア：Moscow State University of Civil Engineering
- アルメニア：UWC Dilijan
- ボスニアヘルツェコビア：Sarajevo School of Science and Technology
- 中国：ハルビン工業大学、Shanghai Lixin University、清華大学、Huaqiao University、北京科技大学、南華大学（台湾）

架け橋生から見た成果

マレーシア

ビンティ モード ザキ・イルディナ アティラさん
2025年度架け橋生（神奈川県立横浜国際高等学校）

新しい見方を知った留学

私にとって、アジアかけはしプロジェクトはとてもいい経験でした。はじめは新しい文化になれることができるか心配でしたが、日本の文化を勉強したり、新しい人に会ったりすることが楽しみでした。いちばん大変だったことは、日本の人との話し方や友だちの作り方になれることでした。私の国では、店で会ったおばさんとも友だちになれるくらい、みんなとても親切です。でも、友だちと仲よくなって、いろいろな場所に行ったことがいちばん楽しい思い出です。友だちといっしょに日本の文化を勉強して、日本の考え方や新しい見方を知ることができました。日本の友だちやアジアかけはしのスタッフ、そして会ったたくさんのおばさまたちがいつも応援してくれて、本当にありがとうと思っています。

タイ

シャリサー ジッティワタナヌクンさん
2025年度架け橋生（茨城県立太田第一高等学校）

私の一番の宝物

私は茨城県で４か月間の留学生活を送りました。

ホストファミリーや学校の友達は、私を留学生としてではなく、一人の家族、一人の友達として受け入れてくれました。

私にとって、この留学は人生の中でもかけがえのない経験です。

このプログラムに参加していなければ、今の私はなかったと思います。

そして何よりも、そこで出会った人たちとのつながりが、私にとって一番の宝物です。

ベトナム

タ・ベット　バックさん
2025年度架け橋生（同志社香里高等学校）

日本でのかけがえのない経験

日本に行く前は、人間関係がうまくいかず孤立することを恐れて不安でしたが、それでも勇気を出して出発の準備をしました。そして事前研修キャンプでは初めは緊張して人見知りしたものの、世界中から来た仲間と出会ううちに心を開き、多くのことを学んで感謝の気持ちを抱きました。さらにホストファミリー宅では突然日本語だけの環境に置かれ言葉の壁を実感した一方で、学校生活では全校生徒の前での自己紹介や部活動、野球、友達との放課後の食事やカラオケなどを通して楽しい日々を送り、ホストファミリーとは共通の音楽の趣味で親しくなり、週末にCDショップやおいしい食事に連れて行ってもらい、特にホストマザーの手作り弁当に温かい愛情を感じました。

インドネシア

ルマシャ・アイシャさん
2025年度架け橋生（大阪府立布施高等学校）

人が人をつなぐ、その先へ

日本での四か月間は、言語、文化、価値観の壁を越え、人と人が心でつながれることを実感した、かけがえのない経験でした。学校生活や寮生活での交流を通じ、思いやりや自律の大切さなど、教科書では学べない人生の財産を得ることができました。私の留学に触れた日本の友人たちが、自ら留学を志したように 架け橋は人から人へ、リレーのように受け継がれていきます。異なる国の若者が互いを深く理解し合うことは、偏見をなくし、対話を生み、平和な世界の土台を築くことに直結します。人から人へと広がるこの連鎖に、国境はありません。

この貴重なプログラムが今後も多くの人に届いて、より豊かな未来の礎となることを、心より願っています。

インド

サイマ・ソニさん
2025年度架け橋生（鹿児島県立与論高等学校）

私の第二の故郷・与論島

私は、自分の国から遠く離れた場所に、第二の故郷と呼べる島があるとは思ってもいませんでした。与論島では、二つのホストファミリーが私を温かく迎えてくださり、すぐに家族のように感じることができました。学校の先生方もとても親切で、いつも支えてくださいました。島の人々も優しく接してくださり、与論島での毎日は特別な思い出になりました。私はウミガメと一緒に泳ぐ貴重な体験をし、日本でディワリのお祝いもすることができました。また、十五夜のお祭りや、「ツンガツンガ」という地域ならではのお祭りにも参加しました。まるで与論島版のハロウィーンのようで、とても楽しかったです。与論島で過ごした時間は、私の人生で最も大切な経験の一つです。

中国

ワン・ユーランさん
2025年度架け橋生（大阪国際高等学校）

成長した４か月

私は2025年８月から12月まで大阪の寮で生活しながら、大阪国際高校に通っていました。授業や文化祭を通じて友達との距離が少しずつ縮まり、特にダンス部では、みんなが私のためにビデオ撮影をしてくれた瞬間が忘れられません。また、私は関西のいろいろな素晴らしいところを見回りました。「外国人による日本語弁論大会」にも挑戦し、受賞とは別に、多くの方と意見を交換できるのは私にとって貴重な経験でした。毎日支えてくれたLPの皆さんや、親身になって指導してくださった先生方には、心から感謝しています。かけはしプログラムは、私に「自分から動くこと」の大切さを教えてくれて、この4か月、私は確かに成長できたと感じています。

トルコ

ヤスミン・カラムツルさん
2019年度架け橋生（島根県立隠岐島前高等学校）
神戸大学経済学部在籍中

「架け橋」を経験した私が、真の架け橋となれる人材へ

架け橋プロジェクトを経験したことは、私が神戸大学へ進学するきっかけの一つになりました。神戸大学では経済学部で学び、国際貿易を中心に勉強してきました。また、大学では交換留学も経験し、韓国で学ぶ機会も得ました。現在は、卒業後も日本で就職し、日本企業と世界をつなぐグローバル人材として活躍することを目指して、就職活動に取り組んでいます。

架け橋プロジェクトを通じて世界が広がった私だからこそ、今度は自分自身が、日本とトルコ、そして日本と世界をつなぐ存在になりたいと思っています。日本での学びや出会いは、私に安心感や成長の機会、そして新しい世界へ踏み出す勇気を与えてくれました。だからこそ、これからは自分のキャリアを通じて、日本や社会に価値を返していける存在になりたいです。

スリランカ

タルシャ・ディルシャンさん
2019年度架け橋生（佐久長聖高等学校）
立命館アジア太平洋大学　アジア太平洋学部国際関係・平和学専攻（2026年９月卒業予定）

日本を拠点とした将来の夢に繋がる原点

現在、大学卒業を目前に控えています。卒業後は、自分の夢に向けた第一歩として、日本の企業（大阪）に就職する予定です。日本で過ごした４年間、学業と並行してAFSの活動にも力を入れてきました。ニューヨークで開催されたAFS Youth Assemblyへの参加や、国際関係分野の会議への参加を通して、自分の視野を広げてきました。また、2026年秋からは新しいAFSの地区活動を立ち上げる予定です。これは、留学生を支援したいという長年の目標の一つでもあります。

今後も日本を拠点に活動を続けながら、入社後は行政書士の資格取得を目指して勉強し、日本で生活する外国の方々を支える存在になりたいと考えています。

これらすべての原点は、自分に日本での留学の機会を与えてくれたアジア架け橋プロジェクトにあります。振り返ると、留学後から現在までの６年間はとても濃く、かけがえのない時間でした。

ミャンマー

モー・プイン・ピューさん
2020年度架け橋生
立命館アジア太平洋大学社会科学部
（ホスピタリティ・観光専攻）卒業

多文化共生の大切さを学んだ経験

私は高校生のとき、アジア架け橋プロジェクトを通して初めて日本に来ました。当時の私は、国際的な環境に触れた経験がほとんどなく、言語や文化の違いに対して不安を抱えていました。

しかし、このプログラムでの生活を通して、異なる文化や価値観を持つ人々と出会い、交流する中で、「違い」を受け入れ、理解し合うことの大切さを学びました。言葉が完全に通じなくても、相手を理解しようとする気持ちがあればつながれるということを実感しました。

アジア架け橋プロジェクトは、日本とアジア、そして世界をつなぐ「架け橋」となる人材の育成を目的としており、異文化理解や国際的な視野を広げる貴重な機会を提供しています。

この経験を通して、私は国際的な環境で生きていきたいという強い思いを持つようになりました。そして現在は、日本での生活を続けながら、多文化が共存する環境の中で働き、成長していくことを目指しています。

将来は、自分自身が「架け橋」となり、異なる文化や人々をつなぐ存在として社会に貢献していきたいと考えています。アジア架け橋プロジェクトで得た経験と学びは、これからの人生においても大きな支えであり続けると確信しています。

モンゴル

エルヘムバヤル・イェスイさん
2022年度架け橋生（サビエル高等学校）
東京国際大学経済学部在籍中

新たな未来・日本での目標を教えてくれたプログラム

架け橋プログラムを修了した後、日本で高等教育を受けたいという強い思いを持つようになり、現在は東京国際大学で学んでいます。日本で学ぶことを選んだ決断は、これまでの人生の中でも特に大きく、意義のあるものであり、その目標を実現するために日々努力を続けています。これまでの経験を通して、出会った人々や築いてきた絆の大切さを深く実感しています。そうしたつながりは、新たな機会を広げながら、私をより明るい未来へと導いてくれています。これからも自分が得たものを大切にしながら、さらに成長していきたいと考えています。

韓国

チェ・スンイルさん
2021年度架け橋生（東海大学附属仰星高等学校）
慶應義塾大学 総合政策学部 在学
教育団体GYS（Get to know YourSelf）代表

世界観を広げ自身の挑戦の土台となった経験

高校時代、アジア架け橋プロジェクトでの留学を通して、多様な人と出会い、自分の世界が大きく広がりました。

当時出会った仲間とは今も交流が続いており、そのつながりが現在の自分の活動や挑戦の土台にもなっています。

その後、慶應義塾大学での学びの中で、自分の価値観や選択の理由（Why）を問い続けるようになりました。

現在は教育団体GYSの活動を通じて、日韓の若者が自分自身の価値観や「Why」と向き合い、主体的に選択できるきっかけをつくっています。

架け橋での出会いと、大学での学びの両方が、今の自分を形づくっています。

これからもその経験を、次の世代へとつないでいきたいです。

ラオス

コンチ・フースヤンさん
2020年度架け橋生（福知山成美高等学校）
熊本高専卒業、豊田科学技術大学進学

日本の文化・優しさ・マナー・時間の大切さから得た学び

高校卒業後、私は日本の「アジア架け橋プロジェクト」という交換プログラムに４ヶ月間参加する機会を得た。このプログラムを通して、日本の文化や人々の優しさを学びました。

特に、日本のマナーそして、時間を大切にする考え方に感動しました。この経験は人生の転機となり、日本人が礼儀正しく勤勉で互いを尊重するだけでなく、その教育システムが世界最高水準であることを実感しました。

こうした日本社会と高度な教育システムに触れた経験が、私が日本で高等教育を続ける大きな動機となりました。幸いなことに、2022年に日本政府の国費留学生に選ばれ、貴重な留学の機会をいただきました。

上記で述べた通り、日本留学が終わったら、私はラオスに帰りたいと思っています。現在の計画として、ラオスに帰る前に、私は大学院まで進学し、日本で５年間ぐらい働きたいと思います。

受入高校から見た成果

遺愛女子高等学校（北海道）

交流の輪が世界に広がる貴重な体験

遺愛女子高等学校　井上　記一 先生

このところ毎年留学生をひとりずつ受け入れております。当初は、毎年同じようなことをするのだろうと予想していたのですが、来校生徒の個性や人柄によって、周囲の生徒の学びの形もずいぶん違ったものとなり、この取り組みの奥深さを感じております。昨年までの受け入れ生のほとんどが、ご家族を連れて再訪してくれました。また逆に、留学生が帰国した何年かの後、はるばる訪ねて行った生徒も多くいます。たった数か月の滞在だったにもかかわらず、ホストファミリーやクラスメートたちとの一生の絆をはぐくんでいる様子は、とてもすばらしいと思います。今年の留学生は大変積極的に自国「イタリア」の紹介をしてくれました。複数回にわたって発表の機会を設定しましたが、工夫を凝らしたプレゼンは大変魅力的でした。多くの生徒たちにとって遠い外国だったその国が、興味津々の身近な国へと変化していきました。きっと近い将来イタリアを訪ねる生徒たちが出てくると思われます。

茨城県立太田第一高等学校・附属中学校（茨城県）

遠く感じた世界が自分ごとに ～生徒の驚くべき変容～

茨城県立太田第一高等学校・附属中学校　江目　真 先生

「アジアの架け橋プロジェクト＋」への参加は、生徒たちに「自己を肯定し、他者を尊重する心」を育む大きなきっかけとなりました。

本校では２年間にわたり本プロジェクトの受け入れを実施しており、昨年度・今年度ともにタイからの留学生を迎えました。４ヶ月間の共同生活において、留学生は通常の授業だけでなく、全校行事での自国紹介のプレゼンテーションや、中学校の探究学習におけるアドバイザーとしても貢献してくれました。こうした交流は、在校生が異文化を「自分事」として捉える貴重な機会となっています。

生徒たちへの影響は計り知れません。「自分も新しいことに挑戦したい」という意欲が醸成されるとともに、多様な価値観を受け入れ、深く理解しようとする姿勢が養われています。

「アジアの架け橋プロジェクト＋」は、試験の点数や偏差値といった数値では測れない、人間としての豊かな成長を支える素地を養う場として、本校にとって不可欠な教育活動となっています。

架け橋生（マレーシア：写真右）とともに

神奈川県立横浜国際高等学校（神奈川県）

「遠い国から来た同級生」だからこそともに成長できる

神奈川県立横浜国際高等学校　稲石　美翔 先生

国際科の専門高校として、「国際社会で広く活躍する人材」の育成を目的とする本校にとって、異文化、非母語の環境下で懸命に学習に取り組み、自らの文化の伝道師としても活動する留学生の存在は大変大きな意義を持っています。彼らの姿を目にすることで、生徒は、自分の中の「常識」を問い直し、自らのバックグラウンドに思いをはせると同時に、自らの現在や未来のあり方について考え、行動することができるようになります。また、今日の諸課題に対してもより多角的で寛容な視点から議論を行い、他者と協働して解決を目指す姿が見られるようになっています。留学生という「同級生」によってもたらされる生徒の変容に毎回驚かされています。

高槻高等学校（大阪府）

世界から来た友だちが、いつのまにか大阪弁。

高槻高等学校　国際教育コーディネーター　横山　貴之 先生

フィリピンからの留学生ジンの前向きな姿勢は、在校生に大きな刺激を与えていました。来日当初から授業や日常生活の中で積極的に日本語を使い続けたことで、次第に自信を持って自分の考えを伝えられるようになりました。探究活動では、自国の社会課題を紹介しながら日本の生徒と議論を重ね、同じテーマでも国によって視点が異なることを互いに学び合う姿が見られました。ジンの経験や意見は新しい気づきをもたらし、議論はより深く多角的なものへと広がりました。学校行事や部活動にも積極的に参加し、友人との交流を通して日本文化を楽しみながら吸収していきました。関西独特の言い回しも身につけ、最後には自然な大阪弁で会話する姿も見られるようになりました。こうした日々の中で、国や文化を越えた信頼と絆が育まれていきました。

架け橋生（フランス：写真中央）及び在校生

徳島県立城東高等学校
（徳島県）

小さな積み重ねからの異文化理解

徳島県立城東高等学校　浅尾 貴代美 先生

留学生がクラスにいることは、もはや特別なことではなく、当たり前の風景となっている。継続的に留学生を受け入れてきたことで、生徒たちの中にそのような意識が根付いている。言語や文化、宗教が異なっていても、留学生は学校生活を共にする大切な友人である。最近では、留学生に限らず、外国からの来訪者を校内で見かけた際にも、多くの生徒が自発的に挨拶を交わし、自然に会話が生まれている。以前は、そのような場面で距離を取ろうとする生徒が多かったことを思うと、確かな変化が見て取れる。異文化理解や多文化共生の重要性は頭では理解できても、実際の行動に結びつけることは容易ではない。だからこそ、日常の中でそうした経験を積み重ねていくことが何より重要である。こうした小さな積み重ねが、生徒たちの視野を広げ、他者を尊重する姿勢を育んでいくのである。

野口先生（中央）サビエル高校に留学中の留学生（左右）

サビエル高等学校（山口県）

遠い国だった場所に、友達の顔が浮かぶようになる。

サビエル高等学校　野口 美奈子 先生

留学生と過ごす時間の中で、生徒たちの世界地図は少しずつ変わっていきます。ニュースで見るだけだった国に、友達の顔が浮かぶようになるからです。そして今では、その国のニュースも、友達の顔を思い浮かべながら見るようになってきたと感じます。

最近では、地域のイベントに留学生を招いていただく機会も増えてきました。小中学生をはじめ、多くの地域の皆さんが各国の留学生と直接言葉を交わし、一緒に歌ったり踊ったり、笑い合ったりする光景が広がっています。

イベントの終わりに、小学生が名残惜しそうに留学生に手を振る姿が印象に残っています。

そうした交流を通して、学校と地域、そして地域の人々と留学生の国との距離も、自然と近づいてきました。

世界とつながることは、特別な出来事ではなく、日常の中で育っていくもの。友達の国が一つ、また一つと増えていくことは、生徒たちの世界を広げ、世界を大切に思う心を育てていく過程なのだと感じています。

架け橋生が在籍のクラスメートとともに

佐賀県立佐賀北高等学校
（佐賀県）

留学生・生徒・職員が共に国際感覚を育んでいく

佐賀県立佐賀北高等学校　国際交流担当　山本 智之 先生

「情報セキュリティについて学んで、サイバー犯罪を減らしたいです。」夢を語ったシャーン君は、本校生徒のキャリア形成の意識にも刺激を与えました。カウェーシャーさんからもらったデーツのお菓子、本校生徒が口にすると「地理の資料集に載っているやつだ、甘い！」と感嘆の声を漏らしました。日本語がみるみる上達していく姿を見て、「留学生すごかね！」と刺激を受けるのは本校職員。留学生は短い期間で大きく成長しましたが、彼らが私たちに残した無形の力は計り知れません。外国に心を通わせた友人を持つ本校生徒は、次世代の社会で声高らかに国際平和を謳ってくれるに違いないと確信させてくれました。

架け橋生（インド：写真右）・田中先生（写真左）

鹿児島県立与論高等学校
（鹿児島県）

教室を超え島全体に広がった交流

鹿児島県立与論高等学校　田中 康裕 先生

本校のある与論島は、周囲約23km、人口約5,000人の小さな島です。今回、本校として初めて留学生を受け入れ、22名のクラスにインドからの留学生サイマが加わりました。生徒たちは、言語や生活習慣の違いだけでなく、物事の捉え方や将来への向き合い方の違いに驚き、強い刺激を受けていきました。政治に関心を持つサイマは、将来は外交官となるため日本の大学で学びたいという夢を真っすぐに語りました。その姿は、生徒たちの心を揺さぶり、「自分はどう生きるのか」を考えるきっかけとなりました。また、「インドの文化を伝えたい」という思いから、インドのお祭り「ディワリ」の開催を提案します。多くの地域の方々やALTの助けをいただき、地域の公民館での実施にこぎつけました。当日は多くの地域住民が訪れ、異文化に触れ、笑顔が広がる時間となりました。与論島での彼女の挑戦は、生徒だけでなく地域の人々の心にも確かな変化をもたらしました。一人の留学生との出会いによって、良い影響が教室を越え、島全体へと広がっていったことを実感しています。

在校生から見た成果

全力投球な架け橋生からの学び

遺愛女子高校　伊勢谷　麻耶さん

架け橋生（写真左）・伊勢谷さん（写真右）

隣の席になった留学生と過ごした５ヶ月間は、私に大きな変化をもたらした。彼女がくれたのは、思い出？異文化交流？それだけではない。たくさんある中でも「憧れの語学力」と「何事にも積極的な姿勢」が印象的だ。常に全力投球な彼女の姿には、いつも圧倒された。彼女の学ぶ日本語が５言語目だと聞いた時は驚きを隠せなかった。さらに、自分の発表に少し抵抗がある人が多い中、彼女の堂々と意見を発信するプレゼンが心に刺さり、鳥肌が立った。環境が変わっても、自信をもって個性を出せる彼女。その姿を目の当たりにした私は、彼女に負けじと、自分も個性を隠さず挑戦していきたいと強く思うようになった。

架け橋生が渡してくれた双眼鏡で見えてきたもの。

神奈川県立横浜国際高等学校　森迫　空夏さん
渡邉　　椿さん

アティラに出会うまで、マレーシアやイスラム教について学校で習ったことしか知らなかったけれど、共に過ごすうちに、身近なことになった。一緒に食べ物選びをしたり、お祈りの時間にあわせた行動を共にしたりすることで一緒にすることで異文化を肌で感じることができた。優しくて勉強熱心で強い心を持ったアティラともっと仲良くなりたくて一生懸命日本語や英語で話しかけるうちに気持ちや伝えたいことをわかりやすくまとめる重要性を学んだ。この経験から私も留学をしたり、アティラに会いに行ったりしたい、自分から異文化に飛び込みたいと思うようになった。また、人との関わりが成長につながることがわかり、人のつながりを支援する仕事にも興味がわいた。

写真左から　架け橋生のアティラ（マレーシア）、中央：渡邉、右：森迫

学ぶきっかけをくれた出会い。

高槻高等学校（ホストファミリー）　平野　直太郎さん

ジン君はアニメが大好きで、アニメをきっかけに日本語を勉強していました。その姿を見て、「好きなことから学ぶことの大切さ」に気づかされました。自分の国である日本のアニメや文化をこんなにも大切に思ってくれていることが、私にとってとても嬉しく、誇らしく感じられました。慣れない環境の中でも、ジン君は弱音を吐くことなく、何事にも前向きに挑戦していました。「こんな経験ができるなんて夢がかなったみたいだ」と話してくれた言葉も印象に残っています。大変なことも多かったはずなのに、いつも明るく新しいことに取り組む姿から、私ももっと挑戦してみようという気持ちをもらいました。国籍や文化の違いを越えて、同じ高校生として心から尊敬できる友人に出会えたことは、私にとって大きな財産になりました。

架け橋生（写真左から３人目）及び平野ファミリーの皆様

まるでイッツ・ア・スモールワールド！

徳島県立城東高等学校　久米　杏樹さん

架け橋生（写真右）・久米さん（写真左）

日本から出たことのない私は、ずっと海外との関わりは学校のALTの先生くらいでした。ニュースや地図で見る世界は本当に大きくて、遠い存在に感じていました。そんな私にとって留学生は最初の海外のお友達！イギリスと日本は言語も文化もまるで違う。しかし好きな食べ物やアニメが同じだったり、同じタイミングで授業中に眠くなったり、列車に乗り遅れないように全力で走ったりと、日本の田舎JKもイギリスの都会ロンドンJKもなんら変わりない16歳の少女でした。国が違うとは、こんなにちっぽけな違いなのだと思いました。

留学生は、私が今まで出会ったなかで１番勉強好きな子でした。学ぶことに喜びを感じており、私もたくさん刺激をもらいました。そして本当に彼女を尊敬しています。思い出の１つに通学時やランチタイムに逆母国語会話をしていたことがあります。それを機により英語が好きになり、もっと英語が上手くなりたいと思うようになりました。現在、彼女との再会に向けて勉強を頑張り続けています！

留学生との輪

サビエル高等学校　**岸和田　彩音**さん

架け橋生（写真左）・岸和田さん（写真右）

私と架け橋の留学生たちとの出会いは私が通っている高校、サビエル高校の寮でした。

サビエル高校は国際交流に積極的な学校でモンゴルや韓国の子たちなど、沢山の留学生と一緒に過ごしてきました。そのなかでも私が特に印象に残っているのは架け橋の留学生たちです。寮でともに生活をする中で、彼女たちの気さくな人柄とどんどん話しかけてくれる積極性が大変嬉しくて、みんなで一緒に買い物やゲーム、ガールズトークを楽しんだりと、笑顔に満ちた日々でした。

コミュニケーションを取るのには、お互いの勉強したい言語を使って話すので英語と日本語が逆になったりしていました。「そのニュアンスならこっちの言い回しの方が自然だよ～」、「これは日本語でなんていうの?」といったふうに、なんてことのない日常のなかでも、お互いにとって学びが多かったのも思い出に残っています。書ききれないくらいの大切な思い出が他にもあります。お別れの日には架け橋の留学生たちが早朝に旅立つにもかかわらず、寮生みんなで早起きして涙ながらに見送りました。

架け橋生との思い出は、私やみんなにとって忘れられない素敵な思い出です。もっと沢山の人たちにこの輪が広がっていったらいいなと思います。

留学生によって変わった私

佐賀北高等学校　**草場　祥**さん

留学生が、自分を変えてくれました。留学生のカウィーシャーは、日本語で行われる授業だけでなく、茶道や卓球などにも積極的に取り組み、間違いを恐れず日本語を話していました。そんな彼女の姿勢は、失敗を恐れて挑戦できない自分にとってとてもかっこよく見え、新たな一歩を踏み出す勇気をくれました。現在は、世界の教育格差をなくしたいという夢を実現するため日々勉強に励んでいます。この決断ができたのは彼女がいてくれたからです。今後もこの出会いに感謝し、努力を続けていきたいです。

架け橋生（写真右）草場さん（写真左）

新しいことへの挑戦のハードルを下げてくれた友

鹿児島県立与論高等学校　**本　帆乃夏**さん

私は留学生のサイマと一緒に授業を受けたり、ご飯を食べたり、文化祭を盛り上げたり、休みの日には遊びに行ったりして、貴重で楽しい時間を過ごすことができました。最初は日本語が通じない人とどうやって一緒に過ごせばいいのか不安でいっぱいでした。英語もあまり得意ではありませんでしたが、ジェスチャーを使い、日本語交じりのヘンテコ英語でなんとか会話をし続けました。回数を重ねるにつれ、だんだん打ち解けることができ、最終的には日常会話程度だと普通に話せるようになりました。私はこの経験を通して、「何事もとりあえずやってみるものだ」と強く再認識することができました。やってみれば案外どうにでもなるものだと、新しいことへの挑戦のハードルを下げてくれたのはサイマです。

一番右：本さん　右から２番目：サイマさん

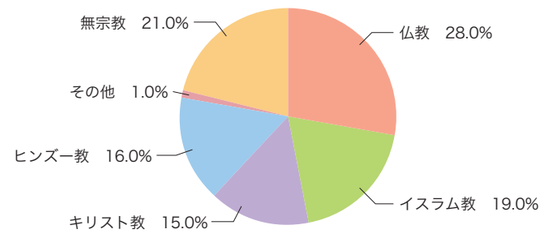
架け橋生の信仰宗教

【架け橋生の多様性】

架け橋生の特徴の一つとして、様々な文化背景（宗教）をもちあわせていることがあります。日本滞在中、AFS日本協会は、宗教上の食事制限等への配慮を学校、ホストファミリー、寮、ボランティアの皆さんとともに、生徒毎に対応できるよう、日々支援してまいりました、以下にて、2018年から2025年までの８年間の来日生徒の宗教別割合を示します。

	年度	仏教	イスラム教	キリスト教	ヒンズー教	ユダヤ教	その他	無宗教	無記入
2023－2025：アジア高校生架け橋プロジェクト＋	2025年度（３期生）	28	19	15	16	0	1	21	0
	2024年度（２期生）	22	25	14	15	0	2	18	2
	2023年度（１期生）	14	9	8	7	0	0	18	1
2018－2022：アジア高校生架け橋プロジェクト	2022年度（５期生）	76	56	37	25	0	4	46	2
	2021年度（４期生）	57	59	41	21	0	2	48	7
	2020年度（３期生）	66	40	25	16	0	0	34	2
	2019年度（２期生）	64	45	33	20	1	0	37	0
	2018年度（１期生）	35	20	18	9	0	0	12	6

【架け橋生の宗教】



ボランティアから見た成果

私たちの活力

北海道　吉田　聖名子さん

留学生サポートのボランティアを続けているのは、留学生の成長がみられること、自分にとって新しい発見と体験ができること。帰国後も交流があるからです。

架け橋生は経済的に豊かではない国出身の生徒もいます。母国でも優秀だが経済的にいい学校に行けないため奨学金で学校に通っている生徒もいます。

日本では授業中に寝ている生徒がいる。勉強するチャンスがあるのにもったいないというその生徒の言葉で、勉強できることは貴重なこと当たり前ではないことに気づかされました。

電気が１日に数時間しか使えないため、釜土で何時間も料理するなどびっくりすることもありました。

帰国した生徒の住む地域が隣国との紛争で危ないのではないかと連絡し無事だったことに安堵したこともあります。

平和も当たり前ではないことも気づかされます。

長年ボランティアをやっていますが毎年違う国の生徒が来ます。特にアジア架け橋生を受入れることは異文化理解につながると感じています。

また帰国した生徒とのやりとりはとても嬉しいものです。ホストファミリーが元留学生を訪ねてその家族に大歓迎された話や元留学生がボランティアスタッフになり次の架け橋生に日本での生活についてオリエンをやった話。日本の大学に合格した、日本で就職が決まったなどの知らせは私たちの活力になります。

お世話好きな私。

新潟県　松永　博美さん

誰かの成長の過程で、ちょっとだけ私も入れて貰いたいと思っていました。

元々、日本とは違う生活をする人々に対して、関心のあった私は、ホストファミリー募集の記事を見つけ、応募をしました。

そこから、ホストファミリーとLP（留学生の相談役）を繰り返しながら十数年、各国の若者との繋がりが出来ました。

AFS活動を通し、色々な場面に出会います。

ホストファミリーや地域の方々は、それまで聞き逃していた国名を聞くと、自然と耳を傾け、その国の留学生の顔を思い浮かべるそうです。

懸念のある国同士の留学生たちは、「それは、政府同士の事。私たちは仲良しよ。」と笑っていました。

兵役義務がある国の留学生は、当然のようにそれを受け入れています。

昨今の世界情勢の中、留学生の話の中で、知る事がたくさんあります。

14年ぶりに再会をした留学生からメッセージがありました。

「世界中の高校生を支え、私たちの人生に大きな変化をもたらしている皆さんを心から尊敬し、大切に思っています。」

この言葉が私にとって何よりの宝物であり、活動の大きな励みになっています。

花を咲かせるお手伝い

東京都　鈴木　真紀さん

以前はホストとして留学生を迎えていましたが、近年はLPとして新しい経験をさせていただいています。来日後の留学生がスムーズに生活できるように準備をするのは、種を植える前の土壌を耕すような役割です。想像力や新たな知識を求められることも多く難しい場面もありますが、留学生とその文化を受け入れる気持ちが育つ大切な期間だと捉えています。

一人一人違う不安や悩みを持つ留学生たちに対してできるのは、それぞれの背景や思いを受け止め寄り添うこと。それが本人らしさを発揮した実り多い留学につながればうれしいです。私自身も楽しみながら、若者たちが花を咲かせるお手伝いができることを誇りに思います。

架け橋生の成長と未来へのつながり

静岡県　武田　光貴さん

静岡支部では、静岡聖光学院様のご協力のもと、毎年多くの架け橋生を学園寮で受け入れていただいています。中でも、インドからの架け橋生の一人は、プログラム終了後に留学で同校にてさらに１年間学び、現在は静岡大学に進学しました。大学２年生となった今は、静岡支部のボランティアスタッフとして、過去の留学生と今現在の留学生と連絡を取りながらサポートを行い、支部の中心として活躍しています。今後も多くの架け橋生が、このように支部や日本との架け橋となってくれることを期待しています。

かけがえのない充実感

奈良県　**栗原　絵美**さん

あまり馴染みがない国など様々な国からも留学生がやって来るのがとても興味深く、大変なこともありますがLPとして、時にホストファミリーとして留学生のサポートを楽しんでいます。

考え方の違いなど理解が難しく戸惑うこともありますが、架け橋プロジェクトの留学生はどの子も一生懸命で、経験豊かなボランティアの先輩方に支えていただき、乗り越えてくることができました。

留学生とはいえ同じ人間同士、理解し気持ちが通じ合えたときはとてもうれしく、帰国時の見送りで見せてくれる笑顔で苦労はすべて報われるように感じます。留学生とだけでなく、ホストファミリーの方々とも深く理解しあうことで得られる充実感は仕事とはまた違ったかけがえのないものになっています。

特別なことではなく日本語の勉強を手伝ったり、カフェでおしゃべりしたり（推しのコンサートに行ったり）いつもの生活を少し丁寧にしていることでお役に立つことができうれしく思います。

ボランティアだからこそ出会えた宝物

広島県　**土井　達浩**さん

私がAFSと関わるようになったのは、今から十二年前のことです。フィンランドからの留学生を初めて受け入れた際、右も左も分からない私たち家族を支えてくださったスタッフの皆さんはとても親切で、そして何より楽しそうに活動されていました。ボランティアであるにもかかわらず、生き生きと留学生に寄り添う姿を見て、「私もこの輪の中に入りたい」と自然に思うようになり、それがボランティアとしての第一歩となりました。

それから今日まで、この地域には本当に多くの留学生が訪れ、さまざまな思いを胸に帰国していきました。帰国後もホストファミリーとつながり続け、日本に遊びに来てくれたり、自分の結婚式に招待してくれたりすることもあります。こうした長く続く関係は、受け入れをしてきた私たちにとって大きな喜びです。

文化も性格も異なる留学生たちを、ホストファミリーやホストスクールの先生方と協力しながらサポートすることは、想像していたよりも大変でした。それでもボランティアスタッフ同士が助け合いながらなんとか乗り越えていけるのは、ほんのわずかな滞在期間でも留学生達の成長が感じられるからだと思います。AFSの活動は留学生だけでなくこのプログラムに参加される全ての方が成長できることが目的です。特に受け入れをしてくださるホストファミリーとホストスクールの皆さんは、留学生と一緒に生活する中で沢山の学びがあると思います。私達スタッフはそのサポートをしながら、自分たちの成長にもつながっているのだと感じています。

そんな成長した留学生との別れはとても寂しいですが、同時に「次はどんな留学生が来るのだろう」という期待が膨らんでいきます。この素晴らしい出会いと別れがあるからこそボランティアを続けていけるのだと思います。

留学生たちが見せてくれる成長、地域に広がる温かなつながり、そして国境を越えて続いていく絆。これらすべてが、私にとってかけがえのない宝物です。これからも、この地域で国際交流の架け橋をつくり続けていきたいと感じています。

地域と世界を、教育者としての視点で繋ぐ

大分県　**廣松　大和**さん

元々、留学生受け入れ校の教員として、2018年度よりAFSと関わってきました。心掛けてきたのは、留学生と日本の生徒が刺激し合い、共に成長できるような教室環境の整備・学習活動の構築です。特に「アジアの架け橋」の生徒たちは、一般的な留学プログラムでは関わりの少ない国からいらっしゃる方も多く、生徒たちは貴重な体験をさせていただいたと感じています。

その後AFSボランティアとして登録し、支部長となった現在では、到着から帰国までのプロセス全体を見る立場となり、より広い視野で留学生と接するようになりました。2025年11月にはスペインで開催された「Chapter Leaders Summit」に参加し、世界中のボランティアリーダーと交流しました。ここでの収穫は、AFSの国際的なネットワーク全体に広がる、一人ひとりのボランティアの熱い想いに触れたことでした。これこそが、AFS留学生の体験を特別なものにしていると感じます。

私自身、学生時代には留学先でたくさんの方々に支えていただきました。そのバトンを今度は私が次世代につなぐ番、という想いで活動しています。加えてこの数年間は、私のライフステージの変化とも重なりました。特に育児を経験することで、留学生一人ひとりの人生を、大切な「一人の子どもの成長」として見つめる気持ちが深まったと感じます。いつか我が子も留学する日が訪れるのだろうか、留学先の方々から大切にしてもらえるだろうか、などと考えると、ボランティアの志に支えられたAFSの理念が一層貴重であると思えます。

そのような中、2026年3月には「架け橋」受け入れ校教員振り返り会にファシリテーターとして参加させていただき、留学生のために奮闘される全国の受け入れ校の先生方に直接お会いし、深い感銘を受けました。学校現場とAFSがさらに連携を強めることで、プログラムはより豊かになると確信しています。これからも歴史あるAFSの体制と、ボランティアにより心の通った交流を大切にしながら、私自身も「架け橋」の一部として成長し続けていきたいと願っています。

お互いを尊重する心から生まれる未来の社会

沖縄県　**玉城　誠也**さん

私もかつて交換留学生として現地の方々に温かく支えていただきました。その経験から、将来的には来日する留学生を支える側になりたいと願い、AFSのボランティアに参加しました。AFSで活動をする中で、興味や関心はあっても海外へ行く機会がどうしても限られる学生達にも、積極的に身近な国際交流や異文化理解の機会を届けたいとも考えています。言葉や文化の違いに戸惑いながらも、一生懸命に自分の思いを伝え、理解し合おうとする学生達やのひたむきな姿を見るたび、国境を越えた友情が確かに生まれていることを感じます。こうした出会いが若者の視野を広げ、互いを尊重する心を育み、未来の社会を支える力になると信じています。

アジア高校生架け橋プロジェクト
2018年度（1期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	4	5	滋賀県	1	1
青森県	1	1	京都府	3	8
岩手県	–	–	大阪府	4	6
宮城県	1	2	兵庫県	4	4
秋田県	–	–	奈良県	1	1
山形県	–	–	和歌山県	–	–
福島県	1	1	鳥取県	1	1
茨城県	2	3	島根県	2	2
栃木県	–	–	岡山県	2	3
群馬県	–	–	広島県	1	1
埼玉県	1	1	山口県	2	7
千葉県	1	1	徳島県	–	–
東京都	4	4	香川県	1	1
神奈川県	7	13	愛媛県	–	–
新潟県	1	2	高知県	–	–
富山県	1	1	福岡県	3	8
石川県	1	1	佐賀県	1	2
福井県	–	–	長崎県	1	1
山梨県	–	–	熊本県	1	1
長野県	1	1	大分県	1	2
岐阜県	2	3	宮崎県	2	2
静岡県	2	2	鹿児島県	1	1
愛知県	5	5	沖縄県	1	1
三重県	1	1	合計	69	100

	国立	公立	私立	合計
受入校数	4校	28校	37校	69校
受入人数	4名	31名	65名	100名

受入高校一覧

北海道静内高等学校、北海道登別明日中等教育学校、札幌聖心女子学院高等学校、札幌日本大学高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、宮城学院高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、茗溪学園高等学校、新潟清心女子高等学校、ふたば未来学園高等学校、麗澤高等学校、浦和高等学校、品川女子学院高等部、佼成学園女子高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、国際基督教大学高等学校、横浜サイエンスフロンティア高等学校、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、横須賀高等学校、横須賀総合高等学校、藤枝明誠高等学校、愛知県立時習館高等学校、愛知県立旭丘高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名城大学附属高等学校、愛知県立木曽川高等学校、四日市高等学校、関高等学校、大垣北高等学校、石川県立小松高等学校、富山国際大学付属高等学校、不二聖心女子学院高等学校、近江兄弟社高等学校、立命館宇治高等学校、立命館高等学校、高槻高等学校、清教学園高等学校、明石工業高等専門学校、奈良県立高取国際高等学校、福知山成美高等学校、同志社香里高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、神戸大学附属中等教育学校、鳥取県立鳥取西高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、清心女子高等学校、金光学園高等学校、広島市立広島中等教育学校、サビエル高等学校、山口県立宇部高等学校、香川県立三木高等学校、中村学園女子高等学校、西南学院高等学校、福岡県立朝倉高等学校、長崎県立長崎東高等学校、八代白百合学園高等学校、岩田高等学校、日南学園高等学校、宮崎県立日南振徳高等学校、沖縄尚学高等学校、東明館高等学校、鹿児島県立喜界高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト
2019年度（2期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	8	20	滋賀県	–	–
青森県	1	1	京都府	4	11
岩手県	1	1	大阪府	10	15
宮城県	3	7	兵庫県	6	6
秋田県	–	–	奈良県	2	2
山形県	–	–	和歌山県	2	2
福島県	3	4	鳥取県	1	1
茨城県	2	6	島根県	2	2
栃木県	–	–	岡山県	2	3
群馬県	1	1	広島県	3	3
埼玉県	2	2	山口県	2	7
千葉県	3	3	徳島県	–	–
東京都	7	7	香川県	1	1
神奈川県	15	26	愛媛県	2	2
新潟県	2	3	高知県	1	1
富山県	–	–	福岡県	2	12
石川県	2	2	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	–	–
山梨県	–	–	熊本県	2	2
長野県	5	15	大分県	1	2
岐阜県	2	3	宮崎県	–	–
静岡県	4	7	鹿児島県	3	4
愛知県	10	12	沖縄県	1	1
三重県	–	–	合計	121	200

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	53校	62校	121校
受入人数	6名	63名	131名	200名

受入高校一覧

札幌日本大学高等学校、旭川大学高等学校、札幌新陽高等学校、札幌静修高等学校、奥尻町立北海道奥尻高等学校、北海道静内高等学校、北海道登別明日中等教育学校、北海道東川高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、岩手県立不来方高等学校、宮城県仙台二華高等学校、仙台白百合学園高等学校、宮城学院高等学校、福島県立只見高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、郡山女子大学附属高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、茗溪学園高等学校、群馬県立中央中等教育学校、埼玉県立羽生第一高等学校、埼玉県立岩槻高等学校、麗澤高等学校、植草学園大学附属高等学校、茂原北陵高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、啓明学園高等学校、法政大学高等学校、国際基督教大学高等学校、富士見高等学校、山脇学園高等学校、佼成学園女子高等学校、神奈川県立藤沢総合高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、横浜雙葉高等学校、カリタス女子高等学校、清泉女学院、相模女子大学高等部、公文国際学園高等部、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、横浜翠陵高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟清心女子高等学校、石川県立小松高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、啓新高等学校、長野県篠ノ井高等学校、長野県長野高等学校、長野市立長野高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、佐久長聖高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、聖マリア女学院高等学校、静岡県立三島北高等学校、静岡聖光学院高等学校、不二聖心女子学院高等学校、聖隷クリストファー高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立時習館高等学校、愛知県立半田高等学校、愛知県立新川高等学校、愛知県立尾北高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋市立北高等学校、名城大学附属高等学校、愛知啓成高等学校、聖霊高等学校、福知山成美高等学校、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、京都府立鳥羽高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、高槻高等学校、清教学園高等学校、浪速高等学校、明星高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立長野高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、大阪府立布施高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、兵庫県立国際高等学校、神戸大学附属中等教育学校、神戸山手女子高等学校、芦屋学園高等学校、奈良県立高取国際高等学校、育英西高等学校、和歌山県立日高高等学校、和歌山信愛高等学校、青翔開智高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、清心女子高等学校、金光学園高等学校、広島大学附属福山高等学校、広島女学院高等学校、英数学館高等学校、山口県立宇部高等学校、サビエル高等学校、香川県立高松北高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立宇和島南中等教育学校、高知県立高知西高等学校、福岡第一高等学校、中村学園女子高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立武雄高等学校、熊本県立済々黌高等学校、八代白百合学園高等学校、岩田高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、沖縄尚学高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト
2020年度（３期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	10	18	滋賀県	–	–
青森県	1	2	京都府	3	11
岩手県	1	2	大阪府	6	11
宮城県	1	1	兵庫県	3	4
秋田県	1	1	奈良県	2	4
山形県	2	3	和歌山県	1	1
福島県	1	1	鳥取県	2	2
茨城県	1	1	島根県	1	1
栃木県	1	6	岡山県	1	2
群馬県	3	3	広島県	1	1
埼玉県	1	1	山口県	1	6
千葉県	3	3	徳島県	2	4
東京都	10	10	香川県	–	–
神奈川県	13	20	愛媛県	2	2
新潟県	2	3	高知県	–	–
富山県	1	1	福岡県	4	12
石川県	2	2	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	–	–
山梨県	–	–	熊本県	–	–
長野県	3	6	大分県	1	3
岐阜県	2	2	宮崎県	1	1
静岡県	1	1	鹿児島県	4	8
愛知県	8	12	沖縄県	2	3
三重県	–	–	合計	108	178

	国立	公立	私立	合計
受入校数	4校	47校	57校	108校
受入人数	5名	57名	116名	178名

受入高校一覧

立命館慶祥高等学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、東京農業大学第二高等学校、群馬県立中央中等教育学校、早稲田大学本庄高等学院、新潟県立新潟商業高等学校、新潟清心女子高等学校、浦和学院高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、成田国際高校、松戸国際高等学校、松戸市立松戸高等学校、佼成学園女子高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、順天高等学校、法政大学高等学校、桜美林高等学校、国際基督教大学高等学校、小平高等学校、富士見高等学校、横浜市立東高等学校、横浜雙葉高等学校、横浜翠陵高等学校、相模女子大学高等部、神奈川県立柏陽高等学校、長野県塩尻志学館高等学校、富山国際大学附属高等学校、小松市立高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、高志高等学校、岐阜農林高等学校、聖マリア女学院高等学校、愛知県立津島高等学校、中部大学第一高等学校、名古屋市立北高等学校、愛知県立大府東高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知啓成高等学校、高槻高等学校、梅花高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、神戸山手女子高等学校、神戸女学院高等学部、奈良県立国際高等学校、鳥取県立倉吉東高等学校、青翔開智中学校・高等学校、清心女子高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県立松山東高等学校、福岡第一高等学校、福岡雙葉高等学校、中村学園女子高等学校、岩田高等学校、宮崎県立本庄高等学校、旭川明成高等学校、北海道東川高等学校、北海道登別明日中等教育学校、札幌日本大学高等学校、札幌新陽高等学校、札幌静修高等学校、北星学園女子高等学校、北海道釧路明輝高等学校、遺愛女子高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、秋田南高等学校、九里学園高等学校、山形東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、茗溪学園高等学校、山脇学園高等学校、カリタス女子高等学校、麻生高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、法政大学国際高等学校、公文国際学園高等部、市立みなと総合高等学校、清泉女学院高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、佐久長聖高等学校、聖隷クリストファー高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立安城東高等学校、福知山成美高等学校、京都府立福知山高等学校、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、東海大学付属仰星高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、育英西高等学校、和歌山県立日高高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立徳島北高等学校、福岡県立北筑高等学校、佐賀県立小城高等学校、佐賀県立武雄高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、樟南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄尚学高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト
2021年度（４期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	14	26	滋賀県	–	–
青森県	1	2	京都府	4	10
岩手県	1	2	大阪府	14	22
宮城県	3	6	兵庫県	4	7
秋田県	1	1	奈良県	6	8
山形県	2	2	和歌山県	1	2
福島県	1	2	鳥取県	2	2
茨城県	4	6	島根県	3	4
栃木県	1	1	岡山県	3	3
群馬県	2	2	広島県	2	2
埼玉県	6	6	山口県	4	11
千葉県	3	3	徳島県	2	3
東京都	15	19	香川県	–	–
神奈川県	17	22	愛媛県	2	2
新潟県	4	5	高知県	–	–
富山県	–	–	福岡県	5	13
石川県	2	2	佐賀県	4	4
福井県	2	2	長崎県	1	2
山梨県	1	1	熊本県	–	–
長野県	5	8	大分県	2	3
岐阜県	2	2	宮崎県	1	1
静岡県	1	1	鹿児島県	4	6
愛知県	13	20	沖縄県	1	1
三重県	2	2	合計	168	249

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	80校	82校	168校
受入人数	10名	96名	143名	249名

受入高校一覧

北海道遠軽高等学校、北海道釧路明輝高等学校、旭川大学高等学校、旭川明成高等学校、北海道旭川永嶺高等学校、札幌新陽高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、北海道東川高等学校、札幌静修高等学校、北星学園女子高等学校、立命館慶祥高等学校、札幌日本大学高等学校、北海道登別明日中等教育学校、遺愛女子中学高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、常盤木学園高等学校、宮城学院高等学校、秋田県立横手清陵学院高等学校、九里学園高等学校新、庄東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、茨城キリスト教学園高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茗溪学園高等学校、栃木県立栃木翔南高等学校、共愛学園高等学校、東京農業大学第二高等学校、早稲田大学本庄高等学院、上越高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立新潟商業高等学校、新潟県立新発田高等学校、埼玉県立浦和第一女子高校、光英ヴェリタス高等学校、千葉県立成田国際高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、品川女子学院高等部、山脇学園高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、早稲田大学高等学院、桐朋女子高等学校、恵泉女学園高等学校、国際基督教大学高等学校、桜美林高等学校、成蹊高等学校、法政大学高等学校、麹町学園女子中学校・高等学校、埼玉県立坂戸高等学校、東京学芸大学国際中等教育学校、東京都立小平高等学校、富士見高等学校、埼玉県立杉戸高等学校、埼玉県立春日部女子高等学校、埼玉県立草加南高等学校、順天高等学校、横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立みなと総合高等学校、横浜市立南高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、川崎市立川崎高等学校、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、横浜翠陵中学高校、神奈川県立厚木高等学校、相模女子大学中等部高等部、カリタス女子中学高校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立藤沢総合高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、神奈川県立七里ガ浜高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、長野県松本県ヶ丘高等学校、飯田女子高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、長野県長野西高等学校、佐久長聖高等学校、山梨県立富士河口湖高等学校、聖隷クリストファー高等学校、愛知県立新川高等学校、愛知県立中村高等学校、愛知県立津島高等学校、中部大学第一高等学校、名古屋市立向陽高等学校、海陽中等教育学校、愛知啓成高等学校、愛知県立尾北高等学校、愛知県立昭和高等学校、大同大学大同高等学校、東邦高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、岐阜県立岐阜総合学園高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立四日市高等学校、小松市立高等学校、小松大谷高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立福井商業高等学校、立命館高等学校、高槻高等学校、大阪府立花園高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、東海大学付属大阪仰星高等学校、大阪府立枚方高等学校、初芝立命館高等学校、清教学園高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、アサンプション国際高等学校、大阪府立桜塚高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立豊中高等学校能勢分校、梅花高等学校、関西学院高等部、啓明学院高等学校、神戸女学院高等学部、明石工業高等専門学校、和歌山県立日高高等学校、京都府立福知山高等学校、福知山成美高等学校、立命館宇治高等学校、大阪府立北野高等学校、奈良育英高等学校、育英西高等学校、奈良県立高取国際高等学校、奈良県立国際高等学校、奈良県立桜井高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛大学附属高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、金光学園高等学校、広島国際学院高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、山口県立萩高等学校、野田学園高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、開星高等学校、鳥取敬愛高等学校、鳥取県立境高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立徳島北高等学校、鎮西学院高等学校、宮崎県立本庄高等学校、岩田高等学校、大分東明高等学校、九州国際大学付属高等学校、九州産業大学付属九州産業高等学校、中村学園女子高等学校、福岡第一高等学校、福岡雙葉高等学校、佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、鹿児島県立屋久島高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、神村学園神村高等部、池田学園池田高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト
2022年度（５期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	11	22	滋賀県	–	–
青森県	1	2	京都府	4	11
岩手県	1	2	大阪府	15	28
宮城県	2	7	兵庫県	3	4
秋田県	1	1	奈良県	7	10
山形県	2	2	和歌山県	1	2
福島県	1	2	鳥取県	2	2
茨城県	6	8	島根県	2	2
栃木県	1	1	岡山県	3	3
群馬県	2	2	広島県	2	2
埼玉県	7	7	山口県	3	10
千葉県	2	2	徳島県	2	2
東京都	12	12	香川県	0	0
神奈川県	12	19	愛媛県	2	2
新潟県	6	6	高知県	0	0
富山県	1	2	福岡県	8	17
石川県	1	1	佐賀県	4	4
福井県	–	–	長崎県	1	2
山梨県	1	2	熊本県	–	–
長野県	6	7	大分県	3	4
岐阜県	3	4	宮崎県	3	3
静岡県	2	3	鹿児島県	4	8
愛知県	12	16	沖縄県	1	1
三重県	–	–	合計	163	247

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	68校	89校	163校
受入人数	8名	83名	156名	247名

受入高校一覧

旭川明成高等学校、北海道旭川永嶺高等学校、北海道立東川高等学校、旭川藤星高等学校、札幌日本大学高等学校、札幌新陽高等学校、立命館慶祥高等学校、北海道釧路明輝高等学校、遺愛女子中学高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道登別明日中等教育学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、宮城学院高等学校、栃木翔南高等学校、新潟清心女子高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立五泉高等学校、新潟商業高等学校、高田北城高等学校、上越高等学校、共愛学園高等学校、明和県央高等学校、茨城高等学校、茨城キリスト教学園高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茗溪学園高等学校、並木中等教育学校、茨城県立竜ケ崎第一高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、秋田県立横手清陵学院高等学校、九里学園高等学校、新庄東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、千葉県立成田国際高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、品川女子学院高等部、東京都立国際高等学校、恵泉女学園高等学校、成蹊高等学校、桜美林高等学校、桐朋女子高等学校、共立女子第二高等学校、法政大学高等学校、学校法人山崎学園　富士見中学高等学校、東京都立小平高等学校、東京都立飛鳥高等学校、埼玉県立坂戸高等学校、埼玉県立越谷北高等学校、埼玉県立草加南高等学校、埼玉県立春日部女子高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、早稲田本庄高等学院、埼玉県立杉戸高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立南高等学校、横浜翠陵高等学校、相模女子大学高等部、神奈川県立藤沢総合高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、神奈川県立七里ガ浜高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、神奈川県立柏陽高等学校、関東学院六浦高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、飯田女子高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、松本第一高等学校、長野県長野西高等学校、佐久長聖高等学校、山梨英和高等学校、富山国際大学付属高等学校、小松大谷高等学校、麗澤瑞浪高等学校、岐阜県立岐阜総合学園高等学校、聖マリア女学院高等学校、中部大学第一高等学校、愛知県立津島高等学校、愛知県立中村高等学校、愛知啓成高等学校、愛知県立尾北高等学校、愛知県立一宮商業高等学校、学校法人海陽学園　海陽中等教育学校、愛知県立大府東高等学校、東邦高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、静岡聖光学院高等学校、聖隷クリストファー高等学校、京都光華高等学校、福知山成美高等学校、京都府立福知山高等学校、立命館高等学校、同志社香里高等学校、樟蔭高等学校、初芝立命館高等学校、大阪府立和泉高等学校、浪速高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、大阪府立桜塚高等学校、アサンプション国際高等学校、梅花高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立豊中高等学校能勢分校、大阪府立北野高等学校、東海大学付属仰星高等学校、高槻高等学校、大阪国際高等学校、奈良県立国際高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校、奈良育英高等学校、奈良県立桜井高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、育英西高等学校、奈良県立国際高等学校、関西学院高等部、啓明学院高等学校、明石工業高等専門学校、近畿大学附属和歌山高等学校、和歌山県立耐久高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県立松山東高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山県立操山高等学校、金光学園高等学校、広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、野田学園高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、青翔開智高等学校、米子北斗高等学校、徳島県立海部高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、中村学園女子高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、西南学院高等学校、九州産業高等学校、福岡雙葉高等学校、福岡第一高等学校、自由が丘高等学校、九州国際大学付属高等学校、鎮西学院高等学校、大分県立別府翔青高等学校、岩田高等学校、大分東明高等学校、宮崎県立南高等学校、宮崎県立本庄高等学校、宮崎県立高千穂高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、東明館中学校・高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、鹿児島県立屋久島高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト＋
2023年度（１期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	1	2	滋賀県	–	–
青森県	–	–	京都府	–	–
岩手県	–	–	大阪府	1	1
宮城県	1	1	兵庫県	–	–
秋田県	–	–	奈良県	2	2
山形県	–	–	和歌山県	–	–
福島県	–	–	鳥取県	–	–
茨城県	–	–	島根県	2	2
栃木県	2	2	岡山県	1	1
群馬県	–	–	広島県	–	–
埼玉県	2	3	山口県	1	3
千葉県	–	–	徳島県	1	1
東京都	3	3	香川県	–	–
神奈川県	5	10	愛媛県	–	–
新潟県	3	3	高知県	–	–
富山県	–	–	福岡県	2	5
石川県	–	–	佐賀県	–	–
福井県	–	–	長崎県	2	2
山梨県	–	–	熊本県	–	–
長野県	–	–	大分県	1	1
岐阜県	1	1	宮崎県	–	–
静岡県	1	2	鹿児島県	1	1
愛知県	7	9	沖縄県	2	2
三重県	1	1	合計	42	58

	国立	公立	私立	合計
受入校数	2校	17校	23校	42校
受入人数	2名	18名	38名	58名

受入高校一覧

旭川志峯高等学校、石巻市立桜坂高等学校、早稲田大学本庄高等学院、新潟県立五泉高校、新潟県立新潟商業高校、新潟県立新発田高校、宇都宮短期大学付属高等学校、栃木県立佐野高校、埼玉県立草加南高校、横浜市立横須賀総合高等学校、公文国際学園、清泉女学院高等学校、相模女子大学高等部、日本女子大学付属高等学校、学校法人山崎学園富士見高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、法政大学中学高等学校、愛知県立大府東高等学校、愛知県立尾北高等学校、学校法人海陽学園　海陽中等教育学校、東邦高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋市立名東高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、麗澤瑞浪高等学校、三重県立四日市高等学校、静岡聖光学院高等学校、初芝立命館高等学校、育英西高等学校、奈良県立国際高等学校、金光学園高校、サビエル高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、徳島県立城東高等学校、西南女学高等学校、中村学園女子高等学校、神村学園高等部、岩田高等学校、鎮西学院高等学校、沖縄尚学高等学校、沖縄県立球陽高等学校（順不同）

アジア高校生架け橋プロジェクト＋
2024年度（２期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	4	7	滋賀県	–	–
青森県	1	1	京都府	2	3
岩手県	2	2	大阪府	5	9
宮城県	1	1	兵庫県	2	2
秋田県	–	–	奈良県	2	2
山形県	–	–	和歌山県	1	2
福島県	–	–	鳥取県	1	1
茨城県	3	3	島根県	2	2
栃木県	–	–	岡山県	2	2
群馬県	–	–	広島県	2	2
埼玉県	3	4	山口県	2	4
千葉県	1	1	徳島県	2	2
東京都	6	7	香川県	–	–
神奈川県	5	6	愛媛県	1	1
新潟県	3	3	高知県	–	0
富山県	1	2	福岡県	2	3
石川県	1	1	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	2	3
山梨県	1	1	熊本県	–	–
長野県	1	2	大分県	1	1
岐阜県	1	2	宮崎県	–	–
静岡県	4	5	鹿児島県	3	3
愛知県	6	6	沖縄県	1	1
三重県	–	–	合計	80	100

	国立	公立	私立	合計
受入校数	3校	40校	37校	80校
受入人数	3名	46名	51名	100名

受入高校一覧

北海道旭川南高等学校、札幌日本大学高等学校、北海道登別明日中等教育学校、遺愛女子中学校・高等学校、青森県立三沢高等学校、岩手県立不来方高等学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華中学校・高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立三条高等学校、関根学園高等学校、茨城県立太田第一高等学校、茗溪学園高等学校、茨城県立古河中等教育学校、早稲田大学本庄高等学院、茂原北陵高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立春日部高等学校、東京都立飛鳥高等学校、佼成学園女子高等学校、お茶の水女子大学附属高等学校、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、法政大学国際高等学校、法政大学中学高等学校、東京都立八王子北高等学校、捜真女学校 中学部・高等学部、法政大学第二中・高等学校、清泉女学院中学高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、長野市立長野高等学校、静岡聖光学院高等学校、静岡県立静岡城北高等学校、静岡県立浜北西高等学校、聖隷クリストファー中・高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立津島高等学校、愛知啓成高等学校、愛知県立一宮西高等学校、名古屋市立名東高等学校、麗澤瑞浪高等学校、富山国際大学付属高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、福井県立高志高等学校、福知山成美高等学校、京都光華中学校・高等学校、大阪国際中学校高等学校、大阪府立枚方高等学校、大阪府立布施高等学校、大阪府立旭高等学校、履正社中学校・高等学校、育英西中学校・高等学校、奈良県立国際高等学校、近畿大学附属和歌山高等学校・中学校、神戸山手女子高等学校、明石市立明石商業高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山龍谷高等学校、広島県立大崎海星高等学校、広島女学院中学高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、愛媛県立今治北高等学校 大三島分校、中村学園女子高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、鎮西学院高等学校、長崎県立佐世保商業高校、岩田中学校・高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、学校法人神村学園高等部、鹿児島市立鹿児島玉龍中学校・高等学校、鹿児島情報高等学校、沖縄県立球陽高等学校

アジア高校生架け橋プロジェクト＋
2025年度（３期）　都道府県別受入校数・受入生徒数一覧

都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)	都道府県	受入高校(校)	受入人数(名)
北海道	6	7	滋賀県	–	–
青森県	1	1	京都府	2	3
岩手県	1	1	大阪府	5	7
宮城県	1	1	兵庫県	1	1
秋田県	–	–	奈良県	2	3
山形県	1	1	和歌山県	–	–
福島県	1	1	鳥取県	1	1
茨城県	2	2	島根県	2	4
栃木県	1	1	岡山県	2	2
群馬県	–	–	広島県	1	1
埼玉県	1	2	山口県	2	5
千葉県	1	1	徳島県	2	2
東京都	7	8	香川県	–	–
神奈川県	6	6	愛媛県	–	–
新潟県	5	5	高知県	–	–
富山県	1	1	福岡県	4	6
石川県	1	1	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	1	2
山梨県	–	–	熊本県	–	–
長野県	1	1	大分県	1	1
岐阜県	2	2	宮崎県	–	–
静岡県	3	6	鹿児島県	2	2
愛知県	7	7	沖縄県	1	1
三重県	1	1	合 計	82	100

	国立	公立	私立	合計
受入校数	1校	35校	46校	82校
受入人数	1名	40名	59名	100名

受入高校一覧

旭川実業高等学校、北海道旭川永嶺高等学校、札幌新陽高等学校、札幌静修高等学校、札幌日本大学高等学校、遺愛女子高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、盛岡白百合学園高等学校、山形県立米沢鶴城高等学校、宮城県仙台東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟明訓高等学校、新潟県立国際情報高校、新潟県立小千谷高等学校、関根学園高等学校、茨城県立太田第一高等学校、茗溪学園高等学校、早稲田大学本庄高等学院、茂原北陵高等学校、東京都立飛鳥高等学校、順天高等学校、國學院大學久我山高等学校、佼成学園女子中学高等学校、東京都立八王子北高等学校、国際基督教大学高等学校、成蹊高等学校、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、清泉女学院中学高等学校、川崎市立橘高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校、長野市立長野高等学校、静岡聖光学院高等学校、静岡県立浜北西高等学校、聖隷クリストファー高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、愛知工業大学名電高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立津島高等学校、名古屋市立名東高等学校、愛知県立尾北高等学校、三重県立四日市高等学校、聖マリア女学院高等学校、麗澤瑞浪高等学校、富山国際大学付属高等学校、石川県立金沢桜丘高等学校、福井県立福井商業高校、高槻高等学校、京都光華高等学校、大阪府立千里高等学校、育英西高等学校、奈良県立国際高等学校、同志社香里高等学校、大阪国際高等学校、大阪府立布施高等学校、小林聖心女子学院高等学校、福知山成美高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、徳島県立城東高等学校、金光学園高等学校、岡山学芸舘高等学校、米子北斗高等学校、開星高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、中村学園女子高等学校、九州産業大学付属九州産業高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、北九州市立高等学校、岩田高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、鎮西学院高等学校、学校法人神村学園高等部、鹿児島県立与論高等学校、 沖縄県立那覇国際高等学校（順不同）

新聞記事が伝えた全国の「架け橋体験」

2025年９月２日　デーリー東北新聞社
「八戸での留学体験　社会活動家の原点」
男女の教育格差是正に取り組む架け橋生
東北新聞社提供

男女の教育格差是正取り組む キランさん（パキスタン）

八戸での留学経験 社会活動家の原点

熊谷雄一市長（左）を表敬訪問したキラン・ラジさん（中央）＝1日、八戸市庁

女性であっても望めば何でもできる

八戸での留学経験が社会活動家としての原点になった。母国パキスタンで男女間の教育格差是正に取り組むキラン・ラジさん(20)は約3年前、初めて来日し八戸へ。当時最も衝撃を受けたのは、男女差のない日本の教育環境だった。帰国後は学校に通えない少女たちの復学支援を続け、これまでに500人以上の就学を実現。1日、八戸市庁に熊谷雄一市長を訪ねたキランさんは「今の自分があるのは八戸での留学体験があったからこそ」と感謝を伝えた。（向屋敷萌）

キランさんによると、パキスタンでは女性が学校に通うのは12歳頃までで、早ければ15歳で結婚。家族制度も男性優位が社会通念として根強く、家庭内でどのような扱いを受けても、女性側から離婚することはできないという。

女性が幸せな一生を送れるかは天次第。「女性は夢を持ってはいけない」―。来日前は、これが当たり前だと思っていた。

しかし、八戸留学がこの価値観を変えた。日本の高校に留学生を招く国の事業「アジア高校生架け橋プロジェクト」に参加し、22年7月～23年3月、八戸聖ウルスラ学院高へ。日本の教育、文化を吸収し、八戸で貴重な時間を過ごした。

女性であっても「望めば何でもできる」。帰国後は即行動に移した。仲間と非営利団体を設立し、教育機会を得られない女性のために活動を開始。女性を家に閉じ込める古い慣習を打破しようと、啓発活動などを積極的に行っている。24年にはパキスタン代表で国連の「ユースアセンブリー」に参加。国連本部と国連教育科学文化機関（ユネスコ）が世界中の若者を集めて開くセミナーでスピーチを行い、社会活動家としての幅を広げている。

キランさんは今回、東京大で開かれた米ハーバード大主催の「HPAIRアジア会議」を終えて来八。熊谷市長は「八戸での経験を生かしてこれからも活躍してほしい。八戸の国際交流にも貢献していただければ」と激励した。

トルコ人留学生ら 武内市長を表敬

武内市長（中央）から記念品として「銀河鉄道999」のグッズを受け取ったヤームルさん（右）とアディティヤさん

北九州市内の高校に留学していたトルコ人のヤームル・アリ・ノガイさん(16)と、インド人のアディティヤ・ニャンデデ・ナルカンデさん(16)が8日、帰国を前に武内和久市長を表敬した。

2人は文部科学省の「アジア高校生架け橋プロジェクト」を活用し、2022年7月から市内の高校に通っていた。スピーチコンテストに参加するなど日本語学習に励んだアディティヤさんは「北九州弁がすごく好き」と流ちょうな日本語で報告した。

ヤームルさんは2月の地震で被災したふるさとを思い、「心優しくサポートしてくれた方々にトルコを代表して感謝する。建築家になる夢に向かって頑張りたい」と語った。

武内市長は「北九州市、日本、母国との懸け橋として活躍してほしい」と期待した。市によると、地震で被災したトルコ・シリアへの募金は、2月末時点で約146万円集まったという。【日向米華】

2023年３月９日　毎日新聞
「トルコ人留学生ら竹内市長を表敬」
地震で被災したふるさとへ思いをはせて
毎日新聞提供

2025年10月７日　上越タイムス社
「現地のあいさつや地理紹介」
上越タイムス社提供

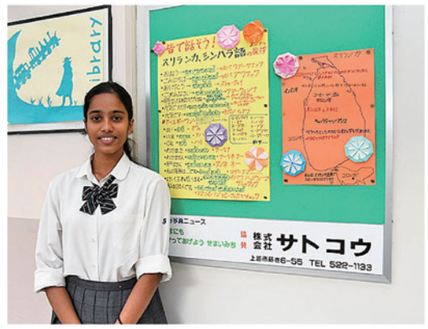
スリランカ出身 メトゥンさん

現地のあいさつや地理紹介
関根学園高で短期留学中

上越市大貫2の関根学園高（鈴木重行校長）に、スリランカ出身のメトゥンリー・ローチャナー・セネウィラトラさん（18）が短期留学している。「メトゥンさん」の愛称で級友や職員に親しまれ、日本文化を学ぶとともに、スリランカの文化を発信している。

メトゥンさんは日本語を学ぶ目的で、8月から12月まで同校に短期留学。一般家庭にホームステイし、学校では2年生のクラスで授業を受けているほか、美術部、書道部、バドミントン部にも参加している。「先生方が優しく、友達がいつも日本語を教えてくれる」と学校生活の充実ぶりや感謝を語る。

スリランカの地理や公用語の一つのシンハラ語のあいさつをまとめたポスターを制作し、廊下に展示。級友が覚えたシンハラ語であいさつしてくれることもあるという。



上越で留学生活を送るメトゥンさん。図書室の廊下にはスリランカのあいさつや地理を紹介するポスターを掲示

2025年11月10日　宇部日報
「出身国はどこでしょう」
自国文化を地元小学校で紹介
宇部日報提供

厚陽小にサビエル校留学生「出身国はどこでしょう？」

6カ国の6人とクイズや給食で交流

サビエル高（小瀬富美代校長）の留学生6人が6日、厚陽小（永田直子校長）を訪れ、小学1～6年生53人とクイズや給食を共にして交流した。

異文化や多様性への理解、コミュニケーション力の育成につなげたいと同小が招いた。8月末から同高で学んでいるスイス、ラオス、スリランカ、タイ、ブータン、ベトナムの15～18歳の生徒たちは民族衣装を着て参加した。

子どもたちは、6人の出身国を当てるゲームに挑戦。それぞれの国の有名な食べ物や虫はたくさん出るかなどユニークな視点で質問し、「紅茶が有名」「冬は寒すぎて虫が出ない」などのヒントを頼りに答えた。

その後、留学生は各教室で日本の学校給食を体験。児童と机を囲み、手を合わせて「いただきます」と合掌すると、白米やサンマのみそ煮などを味わった。スイス出身のメイ・ザバスさん（17）は「かっぱ寿司で配膳する子どもたちがかわいかった。みそ煮は今まで食べたことがない味付けで、おいしかった」と話した。

2年生の田阪乙桜（いお）さんは「スイスの民族衣装がかわいかったし、留学生の話を聞いてタイに行ってみたいと思った。おすしなど日本のおいしい食べ物を伝えたい」と話した。（若槻）

自国の文化を紹介する留学生（厚陽小で）

AFSについて

由 来	AFSは、世界大戦中に傷病兵の救護輸送に携わったアメリカのボランティア組織、American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）の活動に端を発しています。 戦争のない平和な世界の実現をめざし、1947年以来、国際教育交流団体として活動しています。
性 格	特定の政治、宗教に偏ることのない、ボランティアからなる非営利団体です。
理 念	公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力育成のための異文化体験の場を提供します。 高校生の交換留学事業を中心に、社会人、教師、ボランティアなど幅広い年齢層を対象にした異文化理解プログラムを企画・実施しています。
組 織	ニューヨークの国際本部を中心に世界約60の国・地域にネットワークをもち、世界約100か国との間で年間12,000人を超える交流を行っています。

AFSの使命

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。より公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。

AFSの基本的価値観と立場

多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する責任ある地球市民を育てようとAFSは考える。平和は常に不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものだと認めるからである。

AFSはすべての個人、すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いと無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。

AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。

公益財団法人AFS日本協会のあゆみ

1954	日本から第１期生をアメリカへ派遣（横浜港から氷川丸で８人の高校生が渡米）
1955	第１期生によるAFS日本支部の創立
1957	アメリカから９人の高校生を初めて日本に受け入れる
1963	年間受入プログラムがはじまる
1972	ノルウェーの高校生を受け入れ、アメリカ以外の国々との交流がはじまる
1980	文部省（現文部科学省）の許可を受け、財団法人エイ・エフ・エス日本協会を設立
1982	短期派遣プログラムがはじまる
1992	特定公益増進法人の認可を受ける
2000	セメスター受入プログラムがはじまる
2004	国際交流功労者文部科学省大臣表彰を受ける AFS世界会議を日本で初めて開催
2005	大学生、社会人、教育者などを対象にした新規プログラムがはじまる
2011	新公益法人制度に基づく公益財団への移行が認定され、 「公益財団法人AFS日本協会」として移行登記

謝 辞

本報告書の作成にあたり、
多くの方々にご支援いただきました。

文部科学省補助事業である本事業実施にあたり、
事業実施前から多大なご支援、ご尽力、ご指導を賜りました
文部科学省の皆様へ御礼申し上げます。

本事業実施のためにご協力いただいたホストファミリー、受入高校、
寮の皆様に心から感謝いたします。

受入高校の学校教職員の皆様には、
教育の着想から、日々の指導、
語学サポートまで多くのご指導を生徒一人一人にいただきました。
心から感謝申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾の皆様より、
日本人の高校生との国際交流キャンプ実施おいて、
貴重なご指導とご助言を賜りました。感謝申し上げます。

最後に、全国のAFSボランティアの皆様には
日々生徒の傍で数えきれない多くのご支援をいただきました。

皆様の日々の一つ一つのお力添えに心より深くお礼申し上げます。
ありがとうございました。